# cisco.



# **Cisco HX220c M5 HyperFlex** ノードインストール ガイド(ハイブ リッド、オールフラッシュ、**& All-NVMe** モデル)

**初版**:2017年9月15日 最終更新:2019年11月13日

#### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー http://www.cisco.com/jp お問い合わせ先:シスココンタクトセンター 0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む) 電話受付時間:平日 10:00~12:00、13:00~17:00 http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/ 【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意(www.cisco.com/jp/go/safety\_warning/)をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ド キュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更され ている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照くだ さい。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The following information is for FCC compliance of Class A devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case users will be required to correct the interference at their own expense.

The following information is for FCC compliance of Class B devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If the equipment causes interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, users are encouraged to try to correct the interference by using one or more of the following measures:

- · Reorient or relocate the receiving antenna.
- · Increase the separation between the equipment and receiver.
- · Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- · Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Modifications to this product not authorized by Cisco could void the FCC approval and negate your authority to operate the product.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco および Cisco ロゴは、シスコや米国および他の国の関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は、https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html で参照できます。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。 (1721R)

© 2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



# 概要

- 概要 (1ページ)
- Cisco HyperFlex システム関連資料 (2ページ)
- 外部機能 (2ページ)
- ・サービス可能なコンポーネントの場所 (4ページ)
- •ノード機能の概要(5ページ)

# 概要

このガイドでは、すべての Cisco HX220c ハイブリッド、All-Flash、All-NVMe モデルについて 説明します。

次の表に、必要な Cisco HyperFlex ソフトウェアの最小レベルを示します。

(注) 下記のソフトウェア要件はベースシャーシ用です。特定の設定可能なコンポーネントには、このガイドに注記されているように、後続のソフトウェアレベルが必要になる可能性があります。

表 1: HX220c M5 システム ソフトウェアの最小要件

System Version	Cisco HyperFlex ソフトウェアの最小レベル
HX220c M5 Hybrid	2.6 (1a) 以降
(HX220C-M5SX)	
HX220c M5 All-Flash	2.6 (1a) 以降
(HXAF220C-M5SX)	
HX220c M5 All-NVMe	4.0 (1) 以降
(HXAF220C-M5SN)	

# Cisco HyperFlex システム関連資料

スタート ガイド、アドミニストレーション ガイド、リリース ノートなどの関連する Cisco HyperFlex システムのマニュアルへのリンクは、Cisco HyperFlex Systems Documentation Roadmap にリストされています。

# 外部機能

ここでは、ノードの外部機能を示します。

#### 前面パネルの機能

LED の状態の定義については、前面パネルの LED (19ページ)を参照してください。

図1:前面パネル



(1)

 1
 ドライブベイ 3 ~ 10:
 7
 電源装置ステータス LED

 ・HX220c Hybrid : 永続データ HDD
 ・HX220c All-Flash : 永続データ SSD
 8
 ファンステータス LED

 2
 ドライブベイ 1: ログ用のシステム SSD
 8
 ファンステータス LED

 3
 ドライブベイ 2: キャッシング SSD
 9
 ネットワーク リンク アクティビティ LED

4	電源ボタン/LED	10	温度ステータス LED
5	ユニット識別 LED	11	引き抜きアセットタグ
6	システム ステータス LED	12	KVM ケーブル コネクタ (DB-15 VGA 1 個、DB-9 シリアル 1 個、およ び USB コネクタ 2 個を装備した KVM ケーブ ルとともに使用)

#### 背面パネルの機能

LED の状態の定義については、背面パネルの LED (22ページ)を参照してください。

図 2: Cisco UCS C220 M5 サーバの背面パネル



1	モジュラ LAN-on-motherboard(mLOM)カー ドベイ(x16 PCIe レーン)	7	背面ユニット識別ボタン/LED
2	USB 3.0 ポート(2 個)	8	電源(1または2台、2台の電源が存在する場合は1+1として冗長)
3	デュアル 1 Gb/10 Gb イーサネット ポート (LAN1 と LAN2) デュアル LAN ポートは、リンク パートナー の機能に応じて 1 Gbps および 10 Gbps をサ ポートできます。	9	PCIe ライザー 2/スロット 2(x16 レーン) フロントロード NVMe SSD(x8 レーン)用の PCIe ケーブル コネクタが付属
4	VGA ビデオ ポート(DB-15 コネクタ)	10	PCIe ライザー 1/スロット1(x16 レーン)
5	1Gbイーサネット専用管理ポート	11	デュアルホール アース ラグ用ネジ穴
6	シリアル ポート(RJ-45 コネクタ)	-	

# サービス可能なコンポーネントの場所

ここでは、フィールドで交換可能なコンポーネントとサービス関連の品目の場所を示します。 次の図に、上部カバーを外した状態のノードを示します。

図3:サービス可能なコンポーネントの場所



4	冷却ファンモジュール(7個、ホットスワッ プ可能)	12	シャーシ床面(x16 PCIe レーン)上のモジュラ LOM(mLOM)カード ベイ(図示されず)
5	マザーボード上の DIMM ソケット(CPU あ たり12 個)	13	モジュラ RAID(mRAID)ライザー、HBA ス トレージ コントローラをサポート
6	CPUとヒートシンク	14	PCIe ライザー2のフロントロード NVMe SSD 用の PCIe ケーブル コネクタ
7	SATA M.2 SSD ブート ドライブ用のミニスト レージ モジュール	15	PCIe ライザー1の microSD カード ソケット
8	RTC バッテリ、垂直ソケット	-	

# ノード機能の概要

次の表に、ノード機能の概要を示します。

機能	説明
シャーシ	1ラックユニット(1RU)シャーシ
セントラル プロセッサ	1 または 2 個の同じインテル Xeon プロセッサー スケーラ ブル ファミリー CPU。
メモリ	マザーボード上に24個のDDR4DIMMソケット搭載(CPU あたり12個)。
	最低 256 GB のメモリが使用されます。
マルチビット エラー保護	マルチビットエラー保護をサポートします。
ベースボード管理	Cisco Integrated Management Controller (Cisco IMC) ファームウェアを実行する BMC。
	Cisco IMC 設定に応じて、1 Gb 専用管理ポート、1 Gb/10 Gb イーサネット LAN ポート、または、シスコ仮想イン ターフェイスカードを介して Cisco IMC にアクセスできま す。

機能	説明
ネットワークおよび管理 I/O	背面パネル:
	• I GD イーリネット専用官理ホート XI (KJ-45 コネク タ)
	• 1 Gb/10 Gb BASE-T イーサネット LAN ポート X 2 (RJ-45 コネクタ)
	デュアル LAN ポートは、リンク パートナーの機能に 応じて 1 Gbps および 10 Gbps をサポートできます。
	・RS-232 シリアル ポート(RJ-45 コネクタ)X 1
	• VGA ビデオ コネクタ ポート X1(DB-15 コネクタ)
	• USB 3.0 ポート×2
	前面パネル:
	<ul> <li>• USB 2.0 2 個、VGA 1 個、DB-9 シリアル コネクタ 1 個を装備した KVM ケーブルを使用する前面パネル KVM(キーボード/ビデオ/マウス)コネクタ X1。</li> </ul>
モジュラ LOM	背面パネルの追加接続用に、mLOM カードを追加するために使用できる専用ソケット(X 16 PCIe レーン)X1。
電源	1または2台の電源装置。2台の電源が存在する場合は1 +1として冗長。
ACPI	Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 4.0 規格 をサポートしています。
冷却	ホットスワップ可能なファン モジュール(前面から背面 に向かう冷却用)X 7。
PCIe I/O	2 つの水平 PCIe 拡張スロット(PCIe ライザー アセンブリ 上)。
InfiniBand	このノードの PCIe バス スロットは InfiniBand アーキテク チャをサポートしています。
ストレージ、前面パネル	ドライブは前面パネルドライブベイに取り付けられます。

機能	説明
ストレージ、内部	ノードには次の内部ストレージ オプションがあります。
	• マザーボード上の USB ポート X 1。
	• SATA M.2 SSD ブート ドライブをサポートするミニス トレージ モジュール。
	・PCIe ライザー1の microSD カード ソケット X 1。
ストレージの管理	ノードには、HBA ストレージ コントローラをサポートす る専用の内部 mRAID ライザーが付属しています。
統合ビデオ	統合 VGA ビデオ。





ノードの設置

- ・設置の準備 (9ページ)
- ラックへのノードの設置(12ページ)
- ノードの初期設定(16ページ)

### 設置の準備

この章では、ラックにノードを取り付け、初期設定を実行する手順を説明します。

### 設置に関する警告およびガイドライン

(注)

ノードの設置、操作、または保守を行う前に、『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco UCS C-Series Servers』を参照して重要な安全情報を確認してください。

A

警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されていま す。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に 留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の 安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071

警告 システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の35℃(95°F)を超えるエリアで操作しない でください。

ステートメント 1047

Â 警告 いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしてお いてください。 ステートメント 1019 A 警告 この製品は、設置する建物に短絡(過電流)保護機構が備わっていることを前提に設計されて います。この保護装置の定格が 250 V、15 A 以下であることを確認します。 ステートメント 1005 A 警告 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。 ステートメント 1074 Â 警告 この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された 場所とは、特殊な器具、錠と鍵、またはその他の保安手段を使用しないと入れない場所を意味 します。 ステートメント 1017 ∕!∖ 注意 ノードを取り付ける際は、適切なエアーフローを確保するために、レールキットを使用する必 要があります。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つ まり「積み重ねる」と、ノードの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が 速くなったり、電力消費が高くなったりする原因となる可能性があります。ノードをラックに

取り付けるときは、これらのレールによりノード間で必要な最小の間隔が提供されるので、 レールキットにノードをマウントすることを推奨します。レールキットを使用してユニット をマウントする場合は、ノード間の間隔を余分にとる必要はありません。

注意 鉄共振技術を使用する無停電電源装置(UPS)タイプは避けてください。このタイプの UPS は、システムに使用すると、データトラフィックパターンの変化によって入力電流が大きく 変動し、動作が不安定になるおそれがあります。

ノードを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- ノードの周囲に、ノードへのアクセスおよび適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。このノードでのエアーフローは、前面から背面に流れます。
- ・空調が、環境仕様(97ページ)に記載された温度要件に適合していることを確認します。

- キャビネットまたはラックが、ラックに関する要件(11ページ)に記載された要件に適合していることを確認します。
- •設置場所の電源が、電力仕様(98ページ)に記載された電源要件に適合していることを 確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置(UPS)を使用してく ださい。

### ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- ・標準的な 19 インチ(48.3 cm) 幅 4 支柱 EIA ラック(ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサル ピッチに適合するマウント支柱付き)。
- ・付属のシスコ製スライドレールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm (0.38 インチ)の正方形、7.1 mm (0.28 インチ)の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- ノードあたりの縦方向の最小ラックスペースは、1 ラックユニット(RU)、つまり
   44.45 mm(1.75 インチ)である必要があります。

#### サポートされるシスコ製スライド レール キット

ノードは、次のレール キット オプションをサポートします。

- ・シスコ製品 UCSC-RAILB-M4=(ボールベアリング スライド レール キット)。
- ・シスコ製品 UCSC-RAILF-M4=(フリクション スライド レール キット)。
- ・シスコ製品 UCSC-CMAF-M4=(ケーブル マネジメント アーム)

#### ラックの設置に必要な工具

シスコが販売するこのノード用のスライドレールの場合、設置に必要な工具はありません。

#### スライド レールおよびケーブル マネジメント アームの寸法

このノードのスライドレールの調整範囲は24~36インチ(610~914mm)です。

オプションのケーブルマネジメントアーム(CMA)を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- ・ノードの背面から CMA の背面までの距離は 5.4 インチ(137.4 mm) 追加されます。
- CMA を含むノードの全長は 35.2 インチ (894 mm) です。

# ラックへのノードの設置

Â

警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り 付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を 設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

- ステップ1 ノードの側面に内側レールを装着します。
  - a) レール内の3つのキー付きスロットがノード側面の3個のペグの位置に合うように、内側レールをノー ドの一方の側の位置に合わせます。
  - b) キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロッ クします。前面スロットには、前面ペグにロックするための金属製クリップがあります。
  - c) 2 つ目の内側レールをノードの反対側に取り付けます。

図4:ノードの側面への内側レールの取り付け



ステップ2 両方のスライドレール部品で前面の固定プレートを開きます。スライドレール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

#### 図5:前面の固定部分、前端の内側



1	前面側の取り付けペグ	3	開いた位置に引き戻された固定プレート
2	取り付けペグと開いた固定プレートの間 のラック支柱	-	

- ステップ3 外側のスライドレールをラックに取り付けます。
  - a) 片側のスライドレール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。

スライドレールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部か らラック支柱の穴に入ります。

- (注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。
- b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。
- c) 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリースボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが 閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。
- d) スライドレールの長さを調整したら、背面取り付けペグを対応する背面ラック支柱の穴に差し込みま す。スライドレールは前面から背面に向かって水平である必要があります。

背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。

- e) 2つ目のスライドレール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2つのスライドレール部品が同じ 高さであり、水平になっていることを確認します。
- f) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライドレールをラック前方へ引き出します。
- ステップ4 ノードをスライドレールに装着します。
  - 注意 このノードは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で27kg(60 ポンド)の重量 になります。ノードを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨しま す。この手順を1人で実行しようとすると、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。
  - a) ノードの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の空のスライドレールの前端の位置に 合わせます。
  - b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライド レールに押し込みます。
  - c) 両方の内側レールで内側レール リリース クリップを背面に向けてスライドさせたら、前面のスラム ラッチがラック支柱に収まるまで、ノードをラックに押し込みます。

図 6: 内側レール リリース クリップ



**ステップ5** (任意)スライドレールに付属の2本のネジを使用して、ノードをさらに確実にラックに固定します。 ノードを取り付けたラックを移動する場合は、この手順を実行します。

ノードをスライドレールに完全に押し込んだ状態で、ノード前面のヒンジ付きスラムラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、ノードが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラム ラッチについても行ってください。

### ケーブルマネジメントアームの取り付け(任意)

- (注) ケーブルマネジメントアーム (CMA) は、左右を逆にして取り付けることができます。CMA を逆に取り付けるには、取り付ける前にケーブルマネジメントアームを逆に取り付け(任意) (16ページ) を参照してください。
- ステップ1 ノードをラックに完全に押し込んだ状態で、ノードから最も離れた CMA アームの CMA タブを、ラック支 柱に取り付けられている固定スライド レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるま で、タブをレールの終端にスライドさせます。

図 7: スライド レール後端への CMA の取り付け



- **ステップ2** ノードに最も近い CMA タブを、ノードに装着された内側レールの終端にスライドさせます。カチッと音 がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ3 CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを、ラックの幅まで引き出します。
- **ステップ4** 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライド レールの終端 に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- **ステップ5** 各プラスチック製ケーブルガイドの上部でヒンジ付きフラップを開き、必要に応じてケーブルガイドを通してケーブルを配線します。

### ケーブルマネジメントアームを逆に取り付け(任意)

- **ステップ1** CMA アセンブリ全体を、左から右へ 180 度回転させます。プラスチック製ケーブル ガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。
- ステップ2 ノードの背面を向くように、CMA アームの終端でタブを反転させます。
- ステップ3 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、ノードの背面を 向くようにタブを180 度回転させます。

図 8: CMA の反転



# ノードの初期設定

次の資料を参照してください。

- ・ラックにノードを物理的に設置する手順については、ラックへのノードの設置(12ページ)を参照してください。
- システムのファブリックインターコネクトの設定と、HXシリーズHyperFlex ノードをファ ブリックに接続するためのインストール手順については、『Cisco HyperFlex Systems Getting Started Guide』を参照してください。『Cisco HyperFlex Systems Documentation Roadmap』 を参照してください。

- HX220cノードをコンピューティング専用ノードとして追加する手順については、『Cisco HyperFlex Systems Getting Started Guide』の「Adding a Compute Node」の項を参照してくだ さい。『Cisco HyperFlex Systems Documentation Roadmap』を参照してください。
- トラブルシューティングのみの目的でノードをスタンドアロンモードで起動する手順については、スタンドアロンモードでのノードの設定(91ページ)を参照してください。.





# サーバの保守

- •ステータス LED およびボタン (19 ページ)
- ・コンポーネント取り付けの準備 (25ページ)
- ・コンポーネントの取り外しおよび取り付け (32ページ)
- サービス ヘッダーおよびジャンパ (81ページ)
- スタンドアロンモードでのノードの設定(91ページ)

# ステータス LED およびボタン

ここでは、前面、背面、および内部の LED の状態について説明します。

### 前面パネルの LED

図 9:前面パネル LED



#### 表 2:前面パネル LED、状態の定義

	LED 名	状態
1	SAS/SATA ドライブの障害	・消灯:ハードドライブは正常に動作中です。
SAS	(注) NVMe ソリッド ステート ドライブ	<ul> <li>オレンジ:ドライブ障害が検出されました。</li> </ul>
	(SSD)ドライフ トレイの LED の動作 は、SAS/SATA ドライブ トレイとは異な	・オレンジの点滅:デバイスの再構成中です。
	ります。	•1秒間隔のオレンジの点滅:ソフトウェアでド ライブ位置特定機能がアクティブ化されました。
2 SAS	SAS/SATA ドライブ アクティビティ LED	<ul> <li>・消灯:ハードドライブトレイにハードドライ ブが存在しません(アクセスなし、障害なし)。</li> </ul>
		<ul> <li>・緑:ハードドライブの準備が完了しています。</li> </ul>
		<ul> <li>・緑の点滅:ハードドライブはデータの読み取り 中または書き込み中です。</li> </ul>
1 NVMe	NVMe SSD ドライブ障害 (注) NVMe ソリッド ステート ドライブ	<ul> <li>・消灯:ドライブが使用されていないため、安全 に取り外すことができます。</li> </ul>
	(SSD) ドライブ トレイの LED の動作 は、SAS/SATA ドライブ トレイとは異な ります。	•緑色:ドライブは使用中で、正常に機能してい ます。
		<ul> <li>・緑の点滅:ドライバがインサーションに続いて 初期化を実行中であるか、またはイジェクトコ マンドに従ってアンロードを実行中です。</li> </ul>
		<ul> <li>オレンジ:ドライブに障害が発生しています。</li> </ul>
		<ul> <li>オレンジの点滅:ドライブはソフトウェアで Locate コマンドを発行されました。</li> </ul>
2	NVMe SSD アクティビティ	<ul> <li>・消灯:ドライブアクティビティはありません。</li> </ul>
NVMe		•緑の点滅:ドライブ アクティビティがありま す。
3	電源ボタン/LED	<ul> <li>・消灯:サーバにAC電力が供給されていません。</li> </ul>
		<ul> <li>オレンジ:サーバはスタンバイ電源モードです。 Cisco IMC と一部のマザーボード機構にだけ電 源が投入されています。</li> </ul>
		•緑:サーバは主電源モードです。すべてのサー バコンポーネントに電力が供給されています。

・ 青の点滅:ユニット識別機能がアクティブです。           5         システムヘルス           ・緑:サーバは正常動作状態で稼働しています。           ・緑の点滅:サーバは近面動作状態で稼働しています。           ・緑の点滅:サーバは近面動作状態で稼働しています。           ・オレンジの点灯:サーバは過温画状態にあります。           ・オレンジの点灯:サーバは通道画状態にあります。           ・電磁集圏の足性が失われている。           ・CPU が一致しない。           ・少なくとも1つの CPU に障害が発生している。           ・クルなくとも1つの DIMM に障害が発生している。           ・アムくとも1つの DIMM に障害が発生している。           ・オレンジの点滅(2回):メモリ (DIMM) で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ (DIMM) で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ (DIMM) で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(1回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):システムボードで重 のになります。           ・オレンジの点滅:1 合以上の電源装置が輸送運 転状態にあります。           7         ファンステータス           ・緑: キャペてのファンモジュールが正常に動作中 です。           ・オレンジの点滅:1 つ以上のマァンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。	4	ユニット識別	・消灯:ユニット識別機能は使用されていません。
5       システムヘルス       ・緑:サーバは正常動件状態で稼働しています。         ・緑の点滅:サーバはシステムの初期化とメモリ チェックを行っています。       ・緑の点滅:サーバはシステムの初期化とメモリ チェックを行っています。         ・オレンジの点灯:サーバは箱送運転状態にあり ます(軽度の障害)。次に例を示します。         ・電源装置の冗長性が失われている。         ・CPU が一致しない。         ・少なくとも1つのCPUに障害が発生してい る。         ・少なくとも1つのCPUに障害が発生してい る。         ・少なくとも1つのDIMMに障害が発生してい る。         ・水和D 構成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生していえず。         ・オレンジの点蔵(2回):システムボードで重 度の障害が発生しています。         ・オレンジの点蔵(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。         ・オレンジの点蔵(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。         ・オレンジの点蔵:1台以上の電源装置が審選運 転状態にあります。         ・オレンジの点蔵:1台以上の電源装置が審選運 転状態にあります。         ・オレンジの点蔵:1台以上の電源装置が電法な 障害発生状態にあります。         ・オレンジの点蔵:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。         ・オレンジの点蔵:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。         ・オレンジの点蔵:1台以上のマアンモジュールが正常に動作中 です。         ・オレンジの点蔵:1台以上のファンモジュール で回復不能なしさい値を超えました。			•青の点滅:ユニット識別機能がアクティブです。
・緑の点滅:サーバはシステムの初期化とメモリ チェックを行っています。           ・オレンジの点灯:サーバは縮退運転状態にあり ます(艇度の障害)。次に例を示します。           ・オレンジの点灯:サーバは縮退運転状態にあり ます(艇度の障害)。次に例を示します。           ・電源装置の民性が失われている。           ・少なくとも1つのCPUに障害が発生してい る。           ・少なくとも1つのDIMMに障害が発生してい る。           ・少なくとも1つのDIMMに障害が発生してい る。           ・水レンジの点滅(2回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅(1):DUEの電源装置が縮退運 転状態にあります。           ・オレンジの点滅:1:DUEの電源装置が縮退運 転状態にあります。           ・オレンジの点滅:1:DUEの電源装置が確認準 です。           ・オレンジの点滅:1:DUEのマンモジュールが正常に動作中 です。           ・オレンジの点滅:1:DUEのマンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。	5	システム ヘルス	<ul> <li>・緑:サーバは正常動作状態で稼働しています。</li> </ul>
・オレンジの点灯:サーバは縮退運転状態にあります(軽度の障害)。次に例を示します。 ・電源装置の冗長性が失われている。 ・CPU が一致しない。 ・少なくとも1つの CPU に障害が発生してい る。 ・少なくとも1つの DIMM に障害が発生してい る。 ・ひなくとも1つの DIMM に障害が発生してい る。 ・RAID 構成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生している。 ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。 ・オレンジの点滅(4回):CPU で重度の障害が 発生しています。           6         電源装置ステータス         ・線:すべての電源装置が正常に動作中です。 ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮迅運 転状態にあります。 ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が拡大な 障害発生状態にあります。           7         ファンステータス         ・線:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。 ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。			<ul> <li>緑の点滅:サーバはシステムの初期化とメモリ</li> <li>チェックを行っています。</li> </ul>
・電源装置の冗長性が失われている。           ・アロが一致しない。           ・少なくとも1つの CPU に障害が発生している。           ・少なくとも1つの DIMM に障害が発生している。           ・少なくとも1つの DIMM に障害が発生していいる。           ・少なくとも1つの DIMM に障害が発生していいる。           ・水口の増成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生しています。           ・オレンジの点滅 (2回) :システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅 (3回) :メモリ (DIMM) で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅 (4回) : CPU で重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅 (4回) : CPU で重度の障害が 発生しています。           ・緑: すべての電源装置が縮退運 転状態にあります。           ・オレンジの点滅 : 1台以上の電源装置が輸退運 転状態にあります。           アンステータス           ・緑: すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。           ・オレンジの点滅 : 1つ以上のファンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。			<ul> <li>オレンジの点灯:サーバは縮退運転状態にあり ます(軽度の障害)。次に例を示します。</li> </ul>
・CPU が一致しない。           ・少なくとも1つのCPU に障害が発生してい る。           ・少なくとも1つのDIMM に障害が発生してい る。           ・少なくとも1つのDIMM に障害が発生してい る。           ・RAID 構成内の少なくとも1合のドライブ に障害が発生している。           ・オレンジの点滅(2回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・緑:すべての電源装置が正常に動作中です。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮浅運 転状態にあります。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。           7         ファンステータス           ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。           ・オレンジの点滅:1台以上のマァンモジュール で回復不能なしさい値を超えました。			• 電源装置の冗長性が失われている。
・少なくとも1つのCPUに障害が発生している。           ・少なくとも1つのDIMMに障害が発生している。           ・RAID 構成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生している。           ・オレンジの点滅(2回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮退運 転状態にあります。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が離大な 障害発生状態にあります。           アンステータス           ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。           ・オレンジの点滅:1台以上のマァンモジュール で回復不能なしさい値を超えました。			・CPU が一致しない。
・少なくとも1つのDIMMに障害が発生している。           ・RAID 構成内の少なくとも1台のドライブに障害が発生している。           ・オレンジの点滅(2回):システムボードで重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(10):CPUで重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な障害発生状態にあります。           ア         ファンステータス           ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中です。           ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュールで回復不能なしきい値を超えました。			<ul> <li>・少なくとも1つのCPUに障害が発生している。</li> </ul>
・RAID 構成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生している。           ・オレンジの点滅(2回):システムボードで重 度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮退運 転状態にあります。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮退運 転状態にあります。           ア         ファンステータス           ・線:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。           ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。			<ul> <li>・少なくとも1つのDIMMに障害が発生している。</li> </ul>
・オレンジの点滅(2回):システムボードで重度の障害が発生しています。         ・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で重度の障害が発生しています。         ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が発生しています。         ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が発生しています。         ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。         ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な障害発生状態にあります。         ア       ファンステータス         ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中です。         ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュールで回復不能なしきい値を超えました。			<ul> <li>RAID 構成内の少なくとも1台のドライブ に障害が発生している。</li> </ul>
・オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で 重度の障害が発生しています。         ・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が 発生しています。         ・緑:すべての電源装置が正常に動作中です。         ・緑:すべての電源装置が正常に動作中です。         ・オレンジの点灯:1台以上の電源装置が縮退運 転状態にあります。         ア       ファンステータス         ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中です。         ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュール です。         ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。			• オレンジの点滅(2 回) : システム ボードで重 度の障害が発生しています。
・オレンジの点滅(4回):CPUで重度の障害が発生しています。         ・緑:すべての電源装置が正常に動作中です。         ・緑:すべての電源装置が正常に動作中です。         ・オレンジの点灯:1台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。         ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な障害発生状態にあります。         ア       ファンステータス         ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中です。         ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュールで回復不能なしきい値を超えました。			<ul> <li>オレンジの点滅(3回):メモリ(DIMM)で</li> <li>重度の障害が発生しています。</li> </ul>
<ul> <li></li></ul>			<ul> <li>オレンジの点滅(4回): CPU で重度の障害が 発生しています。</li> </ul>
<ul> <li>オレンジの点灯:1台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。</li> <li>オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な障害発生状態にあります。</li> <li>ファンステータス</li> <li>・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中です。</li> <li>・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュールで回復不能なしきい値を超えました。</li> </ul>	6	電源装置ステータス	・緑:すべての電源装置が正常に動作中です。
7       ファンステータス       ・オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。         7       ファンステータス       ・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。         ・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュール で回復不能なしきい値を超えました。			<ul> <li>オレンジの点灯:1台以上の電源装置が縮退運</li> <li>転状態にあります。</li> </ul>
<ul> <li>ファンステータス</li> <li>・緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中です。</li> <li>・オレンジの点滅:1つ以上のファンモジュールで回復不能なしきい値を超えました。</li> </ul>			<ul> <li>オレンジの点滅:1台以上の電源装置が重大な 障害発生状態にあります。</li> </ul>
•オレンジの点滅 : 1 つ以上のファン モジュール で回復不能なしきい値を超えました。	7	ファン ステータス	•緑:すべてのファンモジュールが正常に動作中 です。
			• オレンジの点滅 : 1 つ以上のファン モジュール で回復不能なしきい値を超えました。

8	ネットワーク リンク アクティビティ	<ul> <li>消灯:イーサネット LOM ポート リンクがアイ ドル状態です。</li> </ul>
		<ul> <li>緑:1つ以上のイーサネットLOMポートでリン クがアクティブになっていますが、アクティビ ティは存在しません。</li> </ul>
		<ul> <li>緑の点滅:1つ以上のイーサネットLOMポート でリンクがアクティブになっていて、アクティ ビティが存在します。</li> </ul>
9	温度ステータス	•緑:サーバは正常温度で稼働中です。
		<ul> <li>オレンジの点灯:1つ以上の温度センサーで重 大なしきい値を超えました。</li> </ul>
		<ul> <li>オレンジの点滅:1つ以上の温度センサーで回 復不能なしきい値を超えました。</li> </ul>

# 背面パネルの LED

図 10:背面パネル LED



#### 表 3:背面パネル LED、状態の定義

	LED 名	状態
1	1 Gb/10 Gb イーサネット リンク速度(LAN1 と	• 消灯:リンク速度は 100 Mbps です。
	LAN2 (7)间方)	•オレンジ:リンク速度は1Gbpsです。
		•緑:リンク速度は 10 Gbps です。
2	1 Gb/10 Gbイーサネットリンクステータス(LAN1 ト LAN2 の声士)	・消灯:リンクが確立されていません。
	とLAN2 の両方)	<ul> <li>・緑:リンクはアクティブです。</li> </ul>
		<ul> <li>緑の点滅:アクティブなリンクにトラフィック が存在します。</li> </ul>

3	1 Ch イーサネット専田管理リンク速度	<ul> <li>         ・当灯・リンク速度は 10 Mbps です     </li> </ul>
		· HAN · ノンノ述及な TO Mops C 9。
		•オレンジ:リンク速度は100 Mbps です。
		•緑:リンク速度は1Gbpsです。
4	1 Gb イーサネット専用管理リンク ステータス	<ul> <li>消灯:リンクが確立されていません。</li> </ul>
		<ul> <li>・緑:リンクはアクティブです。</li> </ul>
		<ul> <li>緑の点滅:アクティブなリンクにトラフィック が存在します。</li> </ul>
5	背面ユニット識別	・消灯:ユニット識別機能は使用されていません。
		<ul> <li>・青の点滅:ユニット識別機能がアクティブです。</li> </ul>
6	電源の状態(各電源装置に1つ)	AC 電源装置:
6	電源の状態(各電源装置に1つ)	AC 電源装置: ・消灯: AC 入力なし(12 V 主電源はオフ、12 V スタンバイは電源オフ)です。
6	電源の状態(各電源装置に1つ)	<ul> <li>AC 電源装置:</li> <li>・消灯: AC 入力なし(12 V 主電源はオフ、12 V スタンバイは電源オフ)です。</li> <li>・緑の点滅: 12 V 主電源はオフ、12 V スタンバイ 電源はオンです。</li> </ul>
6	電源の状態(各電源装置に1つ)	<ul> <li>AC 電源装置:</li> <li>・消灯:AC入力なし(12V主電源はオフ、12V スタンバイは電源オフ)です。</li> <li>・緑の点滅:12V主電源はオフ、12Vスタンバイ 電源はオンです。</li> <li>・緑の点灯:12V主電源はオン、12Vスタンバイ 電源はオンです。</li> </ul>
6	電源の状態(各電源装置に1つ)	<ul> <li>AC 電源装置:</li> <li>・消灯:AC入力なし(12V主電源はオフ、12V スタンバイは電源オフ)です。</li> <li>・緑の点滅:12V主電源はオフ、12Vスタンバイ 電源はオンです。</li> <li>・緑の点灯:12V主電源はオン、12Vスタンバイ 電源はオンです。</li> <li>・オレンジの点滅:警告しきい値が検出されまし たが、12V主電源はオンです。</li> </ul>

# 内部診断 LED

サーバには、CPU、DIMM、およびファンモジュールの内部障害 LED があります。

2

#### 図 11:内部診断 LED の場所

(	
Image: Second	PSU 02 PSU 02 PSU 01 PSU 01 PCIe 02 PCIe 02 PCIe 02 PCIe 01 PCIe 01 PCIe 01 PCIe 01 PCIe 01 PCIe 01 PCIe 02 PCIe 02
ファン モジュール障害 LED(マザーボード 上の各ファン コネクタの後方に 1 つ)	<b>3</b> DIMM 障害 LED (マザーボード上の各 DIMM ソケットの後方に1つ)
<ul> <li>オレンジ:ファンに障害が発生しているか、しっかりと装着されていません。</li> </ul>	これらのLEDは、サーバがスタンバイ電源モー ドの場合にのみ動作します。
•緑:ファンは正常です。	•オレンジ : DIMM に障害が発生していま す。
	<ul> <li>消灯: DIMM は正常です。</li> </ul>
<b>CPU</b> 障害 LED (マザーボード上の各 CPU ソ ケットの後方に 1 つ)	-
これらの LED は、サーバがスタンバイ電源 モードの場合にのみ動作します。	
•オレンジ: CPU に障害が発生していま す。	
<ul> <li>消灯: CPU は正常です。</li> </ul>	

## コンポーネント取り付けの準備

ここでは、ノードへのコンポーネントの取り付けの準備に役立つ情報およびタスクについて説 明します。

### サービス手順に必要な工具

この章の手順を実行するには、次の工具および器具を使用します。

- •T-30 トルクス ドライバ (ヒートシンクの取り外し用、交換用 CPU に付属)
- No.1マイナス ドライバ (ヒートシンクの取り外し用、交換用 CPU に付属)
- No.1 プラス ドライバ (M.2 SSD の交換用)
- ・静電気防止用(ESD)ストラップまたは接地マットなどの接地用器具

### Cisco UCS Manager を使用したノードの停止

ノードの内部コンポーネントを置き換える前に、ノードを停止(デコミッション)して Cisco UCS 設定からノードを削除する必要があります。この手順を使用してHX ノードをシャットダ ウンする場合、Cisco UCS Manager により、OS のグレースフル シャットダウン シーケンスが トリガーされます。

- **ステップ1** [Navigation (ナビゲーション)] ペインで、[Equipment (機器)] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Rack Mounts] > [Servers] を展開します。
- ステップ3 停止するノードを選択します。
- ステップ4 [Work] ペインの [General] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ6 [Maintenance (メンテナンス)] ダイアログ ボックスで、[Decommission (デコミッション)] をクリックし、 [OK] をクリックします。

ノードが Cisco UCS 設定から削除されます。

### ノードのシャットダウンと電源切断

ノードは次の2つの電源モードのいずれかで動作します。

・主電源モード: すべてのノードコンポーネントに電力が供給され、ドライブ上にある任意のオペレーティングシステムが動作できます。

スタンバイ電源モード:電力はサービスプロセッサと特定のコンポーネントにのみ供給されます。このモードでノードから電源コードを外すことにより、オペレーティングシステムおよびデータの安全を確保します。

注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 に残ります。いくつかのサービス手順で指示されている完全な電源切断を行うには、ノードの すべての電源装置からすべての電源コードを外す必要があります。

前面パネルの電源ボタンまたはソフトウェア管理インターフェイスを使用してノードをシャッ トダウンすることができます。

#### Cisco UCS Manager の [Equipment] タブを使用したシャットダウン

この手順を使用して HX ノードをシャットダウンする場合、Cisco UCS Manager により、OS の グレースフル シャットダウン シーケンスがトリガーされます。

(注) [Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのノードは動作していません。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Rack Mounts] > [Servers] を展開します。
- **ステップ3** シャットダウンするノードを選択します。
- ステップ4 [Work] ペインの [General] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ6 確認ダイアログが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ノードが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに電源オフ状態が表示されます。

ステップ7 サービス手順でノードの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、ノードの電源装置からすべての電源コードを外します。

### **Cisco UCS Manager** のサービス プロファイルを使用したシャットダウン

この手順を使用して HX ノードをシャットダウンする場合、Cisco UCS Manager により、OS の グレースフル シャットダウン シーケンスがトリガーされます。

- (注) [Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのノードは動作していません。
- ステップ1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ2 [Servers] > [Service Profiles] を展開します。
- **ステップ3**シャットダウン対象のノードのサービスプロファイルが含まれる組織のノードを展開します。
- **ステップ4** シャットダウンするノードのサービス プロファイルを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインの [General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ1 確認ダイアログが表示されたら、[Yes]をクリックします。

ノードが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに電源オフ状態が表示されます。

**ステップ8** サービス手順でノードの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、ノードの電源装置からすべての電源コードを外します。

#### HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン

手順によっては、ノードを Cisco HX メンテナンス モードに直接移行します。この手順では、 すべての VM を他のノードに移行した後、Cisco UCS Manager からノードをシャットダウンし て停止(デコミッション)します。

- ステップ1 vSphere インターフェイスを使用して、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。
  - •vSphere Web クライアントを使用する場合:
  - 1. vSphere Web クライアントにログインします。
  - 2. [Home (ホーム)] > [Hosts and Clusters (ホストとクラスタ)] に移動します。
  - 3. [HX Cluster] が含まれている [Datacenter] を展開します。
  - 4. [HX Cluster] を展開し、ノードを選択します。
  - 5. ノードを右クリックし、[Cisco HX Maintenance Mode (Cisco HX メンテナンス モード)] > [Enter HX Maintenance Mode (HX メンテナンス モードの開始)] の順に選択します。

•コマンドラインインターフェイスの使用:

- 1. root 権限を持つユーザとして、ストレージコントローラクラスタのコマンドラインにログインします。
- 2. ノード ID と IP アドレスを次のように特定します。

# stcli node list --summary

3. ノードをHX メンテナンス モードにします。
# stcli node maintenanceMode (--id ID | --ip IP Address ) --mode enter

(stcli node maintenanceMode --help も参照してください)

- 4. ルート権限を持つユーザとして、このノードの ESXi コマンド ラインにログインします。
- 5. ノードが HX メンテナンス モードになっていることを次のように確認します。

# esxcli system maintenanceMode get

ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをシャットダウンします。

電源ボタンを使用したシャットダウン

(注) この方法は HyperFlex ノードには推奨されませんが、緊急のシャットダウンが必要になったときにそなえて、物理的な電源ボタンの操作について説明します。

**ステップ1** 電源ステータス LED の色を確認します。

- •緑:ノードは主電源モードであり、安全に電源を切断するにはシャットダウンする必要があります。
- ・オレンジ:ノードはスタンバイモードであり、安全に電源を切断することができます。
- **ステップ2** 次の手順でグレースフル シャットダウンまたはハード シャットダウンを実行します。
  - **注意** データの損失やオペレーティング システムへの損傷が発生しないようにするために、必ずオペレーティング システムのグレースフル シャットダウンを実行するようにしてください。
    - グレースフルシャットダウン:電源ボタンを押して放します。オペレーティングシステムでグレース フルシャットダウンが実行され、ノードはスタンバイモードに移行します。移行すると、電源ボタン/LEDがオレンジで示されます。
    - •緊急時シャットダウン:4秒間電源ボタンを押したままにして主電源モードを強制終了し、スタンバイモードを開始します。
- **ステップ3** サービス手順でノードの電源を完全に切断するよう指示されている場合は、ノードの電源装置からすべての電源コードを外します。

### メンテナンス後の手順

ここでは、メンテナンス手順の終了時に参照する手順を説明します。

#### Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働

ノードの内部コンポーネントを置き換えた後、ノードを再稼働(再コミッション)して元の Cisco UCS 設定に追加する必要があります。

- ステップ1 [Navigation (ナビゲーション)] ペインで、[Equipment (機器)] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Rack Mounts] を展開します。
- ステップ3 [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
- ステップ4 再稼動する各ノードの行で、次の手順を実行します。
  - a) [Recommission] カラムでチェックボックスをオンにします。
  - b) [Save Changes] をクリックします。
- ステップ5 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

**ステップ6** (オプション)サーバの再稼動と検出の進行状況を、そのノードの [FSM] タブでモニタします。

#### HX ノードとサービス プロファイルの関連付け

再稼働後にHX ノードをサービスプロファイルに関連付けるには、次の手順を使用します。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ2 [Servers] > [Service Profiles] を展開します。
- **ステップ3** HX ノードに関連付けるサービス プロファイルが含まれる組織のノードを展開します。
- ステップ4 HX ノードに関連付けるサービス プロファイルを右クリックし、[Associate Service Profile] を選択します。
- ステップ5 [Associate Service Profile] ダイアログボックスで、[Server] オプションを選択します。
- ステップ6 ナビゲーション ツリーを移動して、サービス プロファイルを割り当てる HX ノードを選択します。
- ステップ7 [OK] をクリックします。

#### HX メンテナンス モードの終了

サービス手順を実行した後、HX メンテナンス モードを終了するには、次の手順を使用します。

vSphere インターフェイスを使用して、ノードの Cisco HX メンテナンス モードを終了します。

•vSphere Web クライアントを使用する場合:

- 1. vSphere Web クライアントにログインします。
- 2. [Home (ホーム)] > [Hosts and Clusters (ホストとクラスタ)] に移動します。
- 3. [HX Cluster] が含まれている [Datacenter] を展開します。
- 4. [HX Cluster] を展開し、ノードを選択します。
- 5. ノードを右クリックし、[Cisco HX Maintenance Mode (Cisco HX メンテナンス モード)]>[Exit HX Maintenance Mode (HX メンテナンス モードの終了)] の順に選択します。

コマンドラインインターフェイスの使用:

- 1. root 権限を持つユーザとして、ストレージョントローラ クラスタのコマンド ラインにログインします。
- ノードIDとIPアドレスを次のように特定します。
   # stcli node list --summary
- 3. ノードの HX メンテナンス モードを終了します。
   # stcli node maintenanceMode (--id ID | --ip IP Address ) --mode exit (stcli node maintenanceMode --help も参照してください)
- 4. ルート権限を持つユーザとして、このノードの ESXi コマンド ラインにログインします。
- 5. ノードの HX メンテナンス モードが終了したことを次のように確認します。

# esxcli system maintenanceMode get

### ノード上部カバーの取り外し

ステップ1 次のようにして、上部カバーを取り外します。

- a) カバーのラッチがロックされている場合は、ドライバを使用して、ロックを反時計回りに90度回転さ せて、ロックを解除します。
- b) 緑のつまみがあるラッチの終端を持ち上げます。ラッチを持ち上げながら、カバーを開いた位置に押 し戻します。
- c) 上部カバーをノードからまっすぐ持ち上げ、横に置きます。
- ステップ2 次のようにして、上部カバーを取り付けます。
  - a) ラッチが完全に開いた位置にある状態で、カバーを、前面カバー パネルのへりから約2分の1インチ (1.27 cm)後方のノード上部に置きます。ラッチの開口部をファントレイから上に突き出ているペグ に合わせます。
  - b) 閉じた位置までカバー ラッチを押し下げます。ラッチを押し下げながら、カバーを閉じた位置まで前 方に押します。

c) 必要に応じて、ドライバを使用しロックを時計回りに 90 度回転させて、ラッチをロックします。 図 12:上部カバーの取り外し



# コンポーネントの取り外しおよび取り付け

### Â

警告 ブランクの前面プレートおよびカバーパネルには、3つの重要な機能があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への電磁干渉(EMI)の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の冷気の流れを適切な状態に保つことです。システムは、必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーを正しく取り付けた状態で運用してください。

ステートメント 1029

注意 損傷を防ぐため、ノードコンポーネントを取り扱う際には、必ずキャリアエッジを持ち、静 電気防止用(ESD)リストストラップやその他の接地装置を使用してください。

### $\mathcal{P}$

ヒント 前面パネルまたは背面パネルにあるユニット識別ボタンを押すと、ノードの前面パネルと背面 パネル上の青いユニット識別 LED が点滅します。このボタンの確認によって、ラックの反対 側に移動しても対象のノードを特定できます。これらの LED をリモート操作でアクティブに することもできます。

ここでは、ノードコンポーネントの取り付けと交換の方法について説明します。

### サービス可能なコンポーネントの場所

ここでは、フィールドで交換可能なコンポーネントとサービス関連の品目の場所を示します。 次の図に、上部カバーを外した状態のノードを示します。

#### 図 13:サービス可能なコンポーネントの場所



7	SATA M.2 SSD ブート ドライブ用のミニスト レージ モジュール	15	PCIe ライザー 1 の microSD カード ソケット
8	RTC バッテリ、垂直ソケット	-	

### クラスタの複数のノードでハードウェアをアップグレードする際の考 慮事項

この章では、フィールド交換可能としてサポートされているコンポーネントの取り外しと交換 の手順について説明します。このトピックでは、既存のクラスタ内の複数のノードがコンポー ネントの追加または交換によってアップグレードされる際の、追加の考慮事項について説明し ます。

次の手順では、クラスタのノードでハードウェアをアップグレードするための一般的な手順と 考慮事項について説明します。

- (注) 次の説明に従って、システムをシャットダウンせずに、ホットスワップ可能なコンポーネント を交換または追加できます。これらには、特定のドライブ、内部ファンモジュール、電源が含 まれます。シャットダウン手順が必要かどうかを確認するには、この章のコンポーネントの手 順を確認します。
- **ステップ1** 既存のクラスタが正常であることを確認します。
- ステップ2 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ3** ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ4** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノー ドをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ5** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ6** 既存のコンポーネントを取り外して交換するか、またはサポートされている装着ルールに従って新しい コンポーネントを追加します。コンポーネントについては、この章の特定の手順を使用してください。
- **ステップ7** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。

ESXi が起動していることを確認します。ノードは Cisco UCS Manager によって自動検出され、ESXi オペレーティング システムは新しいコンポーネントを認識します。
- ステップ8 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ9** ESXi が vCenter に再接続されていることを確認します。
- ステップ10 ESXiの再起動後、HX メンテナンスモードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンスモードを終了します。
- ステップ11 HX クラスタが再び正常な状態であることを 30 分以内に確認します。
- ステップ12 テスト VM をホストに移動します。テストを実行して、動作していることを確認します。
  - (注) 前のノードをアップグレードし、クラスタが正常であることを確認した後、クラスタの次の HyperFlex ノードでハードウェア アップグレードを2時間以内に実行する必要があります。 HyperFlex Data Platform (HXDP)は、2時間ごとにデータ再調整操作を実行します。このタイマー は、クラスタが再び正常な状態になった後に開始します。コンピューティング専用ノードは、 データ再調整手順の一部ではなく、2時間の時間帯の外にある可能性があります。
- **ステップ13** すべてのノード ハードウェアが更新されるまで、各ノードのハードウェア コンポーネントをアップグ レードするには、上記の手順を繰り返します。

## ハード ドライブまたはソリッド ステート ドライブの交換

ここでは、フロントロードドライブの交換に関する情報を提供します。

### ドライブ装着ルール

次の図に、ドライブスロットの番号付けを示します。

図 14: ドライブ スロットの番号付け

66660000066666000006666			000000000000000000000000000000000000000	000000000000000000000000000000000000000	
Slot 1	Slot 2	Slot 3	Slot 4	Slot	5 : .
		jooopoopo	( paraiaata a		
Slot 6	Slot 7	Slot 8	Slot 9	Slot '	10

次のドライブの装着に関するルールを確認します。

- スロット 1: SDS ログ用のシステム SSD のみ
- •スロット2:キャッシング SSD 専用
- •スロット3~10:
  - ・HX220c Hybrid: 永続データ HDD
  - ・HX220c All-Flash : 永続データ SSD
  - ・HX220c All-NVMe: 永続データ NVMe SSD
- 永続データドライブを装着する場合は、最も番号の小さいベイから先に追加します。

- ・未使用のベイには空のドライブブランキングトレイを付けたままにし、最適なエアーフ ローを確保します。
- ・サポートされるドライブ設定については、HX220c M5 ドライブ構成の比較 (36ページ) を参照してください。

#### (注) ドライブ ラベルに記載されているドライブ容量とソフトウェアで報告される容量について:

ドライブの物理ラベルに記載されている容量と HyperFlex ソフトウェアによって報告された容量は、次の理由によって異なります。

- ドライブ ラベルの容量は10進法(基本10)表記で示されていますが、ソフトウェアによっ て報告された容量は2進法バイナリ(基本2)表記で記述されています。たとえば、10進数 表記の1TBはバイナリ表記で909GBとして報告されます。これらは実際には同じ容量で す。これは、マイルで報告される距離とkmの距離が同じであるにも関わらず、異なる単 位であるのと同じです。次の例は、10進表記と2進法表記で表される容量を示していま す。
  - 500 GB (10 進数) = 465.5 GB (2 進法)
  - •1 TB (10 進数) = 909 GB (2 進法)
  - •2 TB (10 進数) = 1.82 TB (2 進法)
  - •3 TB (10 進数) = 2.72 TB (2 進法)
- 2. 事前にインストールされたソフトウェアとパーティションによって、ストレージ容量も削 減されます。

### HX220c M5 ドライブ構成の比較

次の表に、ノード内の機能ごとにサポートされるドライブの比較を示します。また、表の下に 記載された考慮事項に注意してください。

コンポーネン ト	HX220c M5 Hybrid	HX220c M5 All-Flash	HX220c M5 SED Hybrid	HX220c M5 SED All-Flash	HX220c M5 All-NVMe
システム SSD	SSD :	SSD :	SSD :	SSD :	NVMe SSD:
スロット1	• HX-EV SD240G61X	• HX-EV SD240G61X	• HX-EV SD240G61X	• HX-EV SD240G61X	• HAMMHWAAD
キャッシング	SSD :	SSD :	SED SSD :	SED SSD :	NVMe SSD:
SSD	• HNSD480674P	• HXXVIEWHO	• HNSDX000111119	• HN\$D\$00011E1N\$9	• HANNAEXH35
スロット2	• HN90000234P	• HNSDA00021XEP			• HANNEXA30
		• HNANMENIABS			

コンポーネン ト	HX220c M5 Hybrid	HX220c M5 All-Flash	HX220c M5 SED Hybrid	HX220c M5 SED All-Flash	HX220c M5 All-NVMe
永続データ ド	HDD :	SSD :	SED HDD :	SED SSD :	NVMe SSD:
ライブ	• HXHD21B1K12N	• HX\$D\$606XEV	• HX+D12110NK9	• HX\$D\$007BENK9	• HX4W/HW100
スロット3~ 10		• HASDISTICATEV		• HNSD%073E1NK9	• HX\$\\/H=H\\(00)
10				• HXSD&BEENK9	

オール フラッシュ HyperFlex ノードに関する次の考慮事項と制約事項に留意してください。

- Intel Optane NVMe SSD HX を使用するために必要な最小の Cisco HyperFlex ソフトウェア は、リリース 3.0 (1a) 以上です。HX220c All-Flash ノードのキャッシング ドライブとして HX-NVMEXP-I375 を使用する場合は、クラスタ内のすべてのノードがキャッシング ドラ イブと同じドライブを使用する必要があります。
- HX220c All-Flash HyperFlex ノードは、特定の All-Flash PID として発注されます。All-Flash 構成は、これらの PID でのみサポートされています。
- Hybrid HX220c 構成から HX220c All-Flash 構成への変換はサポートされていません。
- 同じ HyperFlex クラスタ内に Hybrid ノードと All-Flash ノードを混在させることはできません。
- NVMe SSD を使用する場合は、ドライブ バックプレーンから PCIe ライザー 2 に PCIe 信 号を伝送するために PCIe ケーブル CBL-NVME-C220FF が必要です。

#### SED HyperFlex ノードについては、次の考慮事項および制限事項に留意してください。

- •SEDの設定に最低限必要な Cisco HyperFlex ソフトウェアは、リリース 3.5(1a) 以降です。
- ・HX220c ハイブリッド SED HyperFlex ノードと HX220c All-Flash SED HyperFlex ノードを、 同じ HyperFlex クラスタ内で混在させることは、サポートされていません。

### ドライブ交換の概要

ノード内の3つのタイプのドライブには異なる交換手順が必要です。

システム SSD	システムSSDを交換する前に、ノードをCisco
スロット1	HX メンテナンス モードにしておく必要があ ります。システム SSD の交換(スロット 1) (38 ページ)を参照してください。
	(注) 交換には、その他のテクニカル サ ポートが必要なため、お客様が完結 することはできません。

キャッシング SSD スロット 2	ホットスワップ交換は SAS/SATA ドライブで サポートされています。キャッシング SSD の 交換(スロット 2) (41 ページ)を参照して ください。
	<ul><li>(注) SAS/SATA ドライブのホットスワッ プ交換にはホットリムーブが含まれ ているので、動作中のドライブを削 除できます。</li></ul>
	<ul><li>(注) NVMeSSDをキャッシングSSDとして使用している場合は、この手順で説明する追加ステップが必要です。</li></ul>
永続データ ドライブ スロット 3 ~ 10	ホットスワップ交換は SAS/SATA ドライブで サポートされています。永続データ ドライブ の交換(スロット 3 ~ 10) (43 ページ)を 参照してください。
	(注) ホットスワップ交換にはホットリ ムーブが含まれているので、動作中 のドライブを削除できます。
	<ul> <li>(注) NVMeSSDをデータドライブとして</li> <li>使用している場合は、この手順で説</li> <li>明する追加ステップが必要です。</li> </ul>

### システム SSD の交換(スロット1)

ハウスキーピング SSD は、スロット1 に取り付ける必要があります。

(注) この手順では、ハードウェアの交換後の追加のソフトウェアアップデートの手順でテクニカル サポートによるサポートが必要になります。これは、テクニカルサポートのサポートなしでは 完了できません。



(注) ドライブを交換するときは常に、元のドライブと同じタイプとサイズのドライブに交換してく ださい。

Â

- 注意 手順に従って、ハウスキーピング SSD を交換する前に、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。ノードの動作中にハウスキーピング SSD のホット スワップを行うと、ノードが機能しなくなります。
- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ2** ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ5** ハウスキーピング SSD を取り外します。
  - a) ドライブトレイの表面にある解除ボタンを押します。
  - b) イジェクト レバーをつかんで開き、ドライブ トレイをスロットから引き出します。
  - c) ドライブをトレイに固定している4本のドライブ トレイ ネジを外してから、ドライブをトレイから 持ち上げます。
- **ステップ6** 次のようにして、新しいドライブを取り付けます。
  - a) 空のドライブ トレイに新しいドライブを置き、4本のドライブ トレイ ネジを取り付けます。
  - b) ドライブ トレイのイジェクト レバーを開いた状態で、ドライブ トレイを空のドライブ ベイに差し 込みます。
  - c) バックプレーンに触れるまでトレイをスロット内に押し込み、イジェクト レバーを閉じてドライブ を所定の位置に固定します。

サーバの保守

図 15: ドライブ トレイ内のドライブの交換



1	イジェクト レバー	3	ドライブ トレイ ネジ(各側面に 2 個ず つ)
2	解除ボタン	4	ドライブトレイから取り外したドライブ

- **ステップ7** 電源ケーブルを交換し、ノードの電源ボタンを押して電源を入れます。
- **ステップ8** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ9** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ10** ESXi リブート後に、HXメンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHXメンテナンスモードを終了します。

(注) ハウスキーピング SSD を交換した後、追加のソフトウェアアップデートの手順を行うために、 テクニカル サポートに問い合わせてください。

## キャッシング SSD の交換(スロット2)

キャッシング SSD は、スロット2 に取り付ける必要があります。

キャッシング SSD として使用する場合は、NVMe SSD に関する以下の考慮事項に注意してください。

- NVMe SSD は、All-Flash および All-NVMe ノードでのみサポートされます。NVMe SSD は、Hybrid ノードではサポートされません。
- ハイブリッドおよび All-Flash ノードでは、NVMe SSD は、ドライブ ベイ 2 のキャッシン グ SSD の位置でのみサポートされます。NVMe SSD は、All-NVMe ノードでのみ永続スト レージまたはハウスキーピング ドライブとしてサポートされません。
- ・ロケータ(ビーコン)LEDは、NVMeSSD上でオンまたはオフにすることができません。

(注) 必ず、元のドライブとタイプとサイズが同じドライブを交換してください。

(注) 既存の HyperFlex クラスタでは、キャッシングドライブのアップグレードまたはダウングレードはサポートされていません。キャッシングドライブをアップグレードまたはダウングレードする必要がある場合、HyperFlex クラスタを完全に再展開する必要があります。

- (注) SAS/SATA ドライブを使用する場合、ホットスワップ交換にはホットリムーブが含まれている ので、動作中のドライブを削除できます。NVMe ドライブはホットスワップできません。
- ステップ1 キャッシング ドライブが NVMe SSD の場合にのみ、ESXI ホストを HX メンテナンス モードにしてください (HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)を参照)。それ以外の 場合は、ステップ 2 に進みます。
- ステップ2 キャッシング SSD を取り外します。
  - a) ドライブトレイの表面にある解除ボタンを押します。
  - b) イジェクト レバーをつかんで開き、ドライブ トレイをスロットから引き出します。
  - c) ドライブをトレイに固定している4本のドライブトレイネジを外してから、ドライブをトレイから持ち上げます。

**ステップ3** 次のようにして、新しいドライブを取り付けます。

- a) 空のドライブ トレイに新しいドライブを置き、4本のドライブ トレイ ネジを取り付けます。
- b) ドライブ トレイのイジェクト レバーを開いた状態で、ドライブ トレイを空のドライブ ベイに差し込みます。
- c) バックプレーンに触れるまでトレイをスロット内に押し込み、イジェクト レバーを閉じてドライブを 所定の位置に固定します。
- ステップ4 キャッシング SSD が NVMe SSD の場合のみ:
  - a) ESXi ホストをリブートします。これにより、ESXi で NVMe SSD が検出できるようになります。
  - b) ESXi ホストの HX メンテナンス モードを終了します (HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ) を参照)。

図 16: ドライブ トレイ内のドライブの交換



#### 永続データ ドライブの交換 (スロット3~10)

- (注) ホットスワップ交換にはホットリムーブが含まれているので、動作中のドライブを削除できま す。

(注) ドライブを交換するときは常に、元のドライブと同じタイプとサイズのドライブに交換してく ださい。

データSSDとして使用する場合は、NVMeSSDに関する以下の考慮事項に注意してください。

- NVMe SSD は、All-NVMe ノードでのみ永続データとしてサポートされます。
- ・ロケータ(ビーコン)LEDは、NVMeSSD上でオンまたはオフにすることができません。
- ステップ1 永続データ ドライブが NVMe SSD の場合にのみ、ESXI ホストを HX メンテナンス モードにしてください (HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)を参照)。それ以外の場 合は、ステップ 2 に進みます。
- ステップ2 次のようにして、交換するドライブを取り外すか、ベイからブランクドライブトレイを取り外します。
  - a) ドライブトレイの表面にある解除ボタンを押します。
  - b) イジェクト レバーをつかんで開き、ドライブ トレイをスロットから引き出します。
  - c) 既存のドライブを交換する場合は、ドライブをトレイに固定している4本のドライブトレイネジを外し、トレイからドライブを取り外します。
- ステップ3 次のようにして、新しいドライブを取り付けます。
  - a) 空のドライブ トレイに新しいドライブを置き、4 本のドライブ トレイ ネジを取り付けます。
  - b) ドライブ トレイのイジェクト レバーを開いた状態で、ドライブ トレイを空のドライブ ベイに差し込みます。
  - c) バックプレーンに触れるまでトレイをスロット内に押し込み、イジェクト レバーを閉じてドライブを 所定の位置に固定します。
- ステップ4 キャッシング SSD が NVMe SSD の場合のみ:
  - a) ESXi ホストをリブートします。これにより、ESXi で NVMe SSD が検出できるようになります。
  - b) ESXi ホストの HX メンテナンス モードを終了します(HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ) を参照)。

図 17:ドライブ トレイ内のドライブの交換



# ファンモジュールの交換

**ヒント** 各ファンモジュールには、マザーボード上のファンコネクタの隣に1個の障害 LED がありま す。この LED が緑色に点灯している場合は、ファンが正しく設置されており、動作が良好で す。ファンに障害が発生している場合、またはファンが正しく装着されていない場合、LED は オレンジ色に点灯します。

Â

- 注意 ファンモジュールはホットスワップ可能なため、ファンモジュールの交換時にノードのシャットダウンまたは電源の切断を行う必要はありません。ただし、適切な冷却を保てるよう、ファンモジュールを取り外した状態でのノードの稼働は、1分以内にしてください。
- **ステップ1** 既存のファン モジュールを取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出し てください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
  - c) ファン モジュールの前面および背面のつまみをつかみます。まっすぐ持ち上げ、マザーボードからコ ネクタを外します。
- **ステップ2** 次のようにして、新しいファン モジュールを取り付けます。
  - a) 新しいファン モジュールを所定の位置に置きます。ファン モジュール上部に印字されている矢印が ノード後部に向いている必要があります。
  - b) ファン モジュールをゆっくりと押し下げて、マザーボード上のコネクタにしっかりと差し込みます。
  - c) ノードに上部カバーを戻します。
  - d) ノードをラックに再度取り付けます。

## メモリ(DIMM)の交換

 $\underline{\mathbb{A}}$ 

注意 DIMM とそのソケットは壊れやすいので、取り付け中に損傷しないように、注意して扱う必要 があります。

注意 シスコではサードパーティの DIMM はサポートしていません。シスコ以外の DIMM をサーバ で使用すると、システムに問題が生じたり、マザーボードが損傷したりすることがあります。

(注) ノードパフォーマンスを最大限に引き出すには、DIMMの取り付けまたは交換を行う前に、 メモリパフォーマンスに関するガイドラインと装着規則を熟知している必要があります。

### DIMM の装着規則とメモリ パフォーマンスに関するガイドライン

ここでは、最大のメモリパフォーマンスを得るためのルールおよびガイドラインについて説明します。

#### DIMM スロットの番号付け

次の図に、マザーボード上の DIMM スロットの番号付けを示します。

#### 図 18: DIMM スロットの番号付け



#### DIMM 装着ルール

最大のパフォーマンスを得るために、DIMMの取り付けまたは交換を行うときは、次のガイド ラインに従ってください。

- •各 CPU では6つのメモリ チャネルがサポートされます。
  - CPU1はチャネルA、B、C、D、E、Fをサポートします。
  - ・CPU2はチャネルG、H、J、K、L、Mをサポートします。
- ・各チャネルには DIMM スロットが 2 つあります(たとえば、チャネル A=スロット A1 と A2)。
- ・シングル CPU 構成の場合、CPU1 のチャネルのみに装着します(A、B、C、D、E、F)。
- ・最適なパフォーマンスを得るには、CPUの数およびCPUあたりのDIMMの数に応じて、 次の表に示す順序でDIMMを装着します。サーバにCPUが2つ搭載されている場合は、 次の表に示すように、2つのCPU間でDIMMが均等になるように調整します。



(注) 次の表に、推奨構成を示します。CPU あたり 5、7、9、10、または 11 個の DIMM を使用することはお勧めしません。

#### 表 4: DIMM 装着順序

CPU あたりの	CPU1 スロットへの装着		CPU 2 スロットへの装着		
DIMM の数(推 奨構成)	青の#1スロット	黒の#2スロット	青の#1スロット	黒の#2スロット	

1	(A1)	-	(G1)	-
2	(A1、B1)	-	(G1、H1)	-
3	(A1, B1, C1)	-	(G1、H1、J1)	-
4	(A1、B1) 、 (D1、E1)	-	(G1、H1) 、 (K1、L1)	-
6	(A1、B1) 、 (C1、D1) 、 (E1、F1)	-	(G1、H1) 、 (J1、K1) 、 (L1、M1)	-
8	(A1, B1) , (D1, E1)	(A2、B2) (D2、E2)	(G1、H1) 、 (K1、L1)	(G2、H2) (K2、L2)
12	(A1、B1)、 (C1、D1)、 (E1、F1)	(A2、B2)、 (C2、D2)、 (E2、F2)	(G1、H1) 、 (J1、K1) 、 (L1、M1)	(G2、H2)、 (J2、K2)、 (L2、M2)

- •1 つの CPU によって制御される 12 個の DIMM スロットで使用できる最大合計メモリ容量 は 768 GB です。12 個の DIMM スロットに合計 768 GB を超える容量のメモリを装着する には、「M」で終わる PID を持つ大容量メモリ CPU(たとえば、UCS-CPU-6134 M)を使 用する必要があります。
- ・次の表に示す DIMM の混在規則に従ってください。

#### 表 5: DIMM の混在使用の規則

DIMM パラメータ	同一チャネル内の DIMM	同一バンク内の DIMM
DIMM 容量 RDIMM = 16GB また は 32GB LRDIMM = 64GB TSV-RDIMM = 128GB	同一チャネル内に異なる容量 のDIMMを混在させることが できます(たとえば、A1、A2 など)。	バンク内で DIMM 容量を混在させ ることはできません(たとえば、 A1、B1)。DIMM のペアは同じで ある必要があります(同じ PID お よびリビジョン)。
DIMM 速度 例:2666 GHz	速度を混在できますが、 DIMM はチャネルにインス トールされた最も遅い DIMM/CPUの速度で動作しま す。	バンク内で DIMM 速度を混在させ ることはできません(たとえば、 A1、B1)。DIMM のペアは同じで ある必要があります(同じ PID お よびリビジョン)。
DIMM タイプ RDIMM または LRDIMM	チャネル内でDIMM タイプを 混在させることはできませ ん。	バンク内で DIMM タイプを混在さ せることはできません。

#### DIMM の交換

#### 障害のある **DIMM** の識別

各 DIMM ソケットには、対応する DIMM 障害 LED が DIMM ソケットの正面にあります。ノー ドがスタンバイ電源モードの場合、これらの LED はオレンジ色に点灯し、障害のある DIMM であることを示します。

- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノード をデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上を 流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを取り 外す必要があります。
- ステップ4 すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 次のようにして、既存の DIMM を取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - 注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出し てください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
  - c) DIMM スロットの前端を覆うエアーバッフルを取り外してスペースを空けます。
  - d) 取り外す DIMM の場所を確認して、その DIMM スロットの両端のイジェクト レバーを開きます。
- ステップ6 次のようにして、新しい DIMM を取り付けます。
  - (注) DIMMを装着する前に、このノードのメモリ装着規則(DIMMの装着規則とメモリパフォーマン スに関するガイドライン(46ページ))を参照してください。
  - a) 新しい DIMM をマザーボード上の空のスロットの位置に合わせます。DIMM スロット内の位置合わせ 機能を使用して、DIMM を正しい向きに配置します。
  - b) DIMM がしっかりと装着され、両端のイジェクトレバーが所定の位置にロックされるまで、DIMM の 上部の角を均等に押し下げます。
  - c) ノードに上部カバーを戻します。
  - d) ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源を オンにします。
- **ステップ7** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- ステップ8 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サー ビス プロファイルに関連付けます。

ステップ9 ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モードを終了します。

## CPU およびヒートシンクの交換

ここでは、CPU 構成ルール、および CPU とヒートシンクの交換手順について説明します。

### 第二世代 Intel Xeon Scalable Processors へのアップグレードのための特別情報

 $\Lambda$ 

注意 このノードでサポートされている第二世代の Intel Xeon Scalable Processors にアップグレードす る前に、ノードのファームウェアとソフトウェアを必要な最小レベルにアップグレードする必 要があります。古いバージョンのファームウェアは新しい CPU を認識できないため、ノード がブート不可能になります。

(注) 同じクラスタの第一世代および第二世代 Intel Xeon Scalable プロセッサを使用できます。第一 世代および第二世代プロセッサを同じノードで混合しないでください。

第二世代 Intel Xeon Scalable Processors をサポートするこのノードで、必要な最小のソフトウェ アおよびファームウェア バージョンは、次のとおりです。

#### 表 6: 第二世代 Intel Xeon Scalable Processors の最小要件

ソフトウェアまたはファームウェア	最小バージョン
ノード Cisco IMC/BIOS	4.0 (4d)
Cisco UCS Manager	4.0 (4d)
Cisco HyperFlex データ プラットフォーム	4.0(1b)

次のいずれか1つの処理を実行します。

- ・サーバのファームウェアや Cisco UCS Manager ソフトウェアが上(または後で)に示されている最小の必要レベルである場合は、このセクションの手順を使用して CPU ハードウェアを交換できます。
- ・サーバのファームウェアおよびCisco UCS Manager ソフトウェアが必要なレベル以前のバージョンの場合、ソフトウェアをアップグレードします。ソフトウェアをアップグレードした後、指示通りにこのセクションに戻り、CPU ハードウェアを交換します。

#### CPU 構成ルール

このノードのマザーボードには2個の CPU ソケットがあります。各 CPU は、6 つの DIMM チャネル(12の DIMM スロット)をサポートします。

・ノードは、1つの CPU または2つの同型 CPU が取り付けられた状態で動作できます。



 (注) シングル CPU 構成は、CPU SKU HX-CPU-4114 以降の HX Edge 構成でのみサポートされます。シングル CPU 構成は、 HX-CPU-3106、HX-CPU-4108、または HX-CPU-4110 ではサポートされません。

- ・最小構成では、サーバに最低でもCPU1が取り付けられている必要があります。最初に CPU1、次にCPU2を取り付けます。
- ・次の制約事項は、シングル CPU 構成を使用する場合に適用されます。
  - DIMM の最大数は 12 です(CPU 1 チャネル A、B、C、D、E、F のみ)。
  - PCIe ライザー2 (スロット2) は使用できません。
  - NVME ドライブは使用できません(PCIe ライザー2が必要です)。
- •1 つの CPU によって制御される 12 個の DIMM スロットで使用できる最大合計メモリ容量 は 768 GB です。12 個の DIMM スロットに合計 768 GB を超える容量のメモリを装着する には、「M」で終わる PID を持つ大容量メモリ CPU(たとえば、UCS-CPU-6134 M)を使 用する必要があります。

### CPUの交換に必要な工具

この手順に必要な工具および器具は、次のとおりです。

- •T-30 トルクス ドライバ:交換用 CPU に付属。
- No.1 マイナス ドライバ:交換用 CPU に付属。
- CPU アセンブリ ツール:交換用 CPU に付属。Cisco PID UCS-CPUAT=として個別に注文 可能。
- ・ヒートシンク クリーニング キット:交換 CPU に付属。Cisco PID UCSX-HSCK=として個 別に注文可能。

1つのクリーニングキットで最大4つの CPU をクリーンアップできます。

サーマルインターフェイスマテリアル(TIM):交換用 CPU に付属しているシリンジ。
 既存のヒートシンクを再利用する場合にのみ使用(新しいヒートシンクには、TIMのパッドがあらかじめ貼り付けられています)。Cisco PID UCS-CPU-TIM=として個別に注文可能。

1つの TIM キットが1つの CPU をカバーします。

### CPU およびヒートシンクの交換

#### Æ

- 注意 CPUとそのソケットは壊れやすいので、ピンを損傷しないように十分に注意して扱う必要があります。CPUはヒートシンクとサーマルインターフェイスマテリアルとともに取り付け、適切に冷却されるようにする必要があります。CPUを正しく取り付けないと、サーバが損傷することがあります。
- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ2** ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ5** 既存の CPU/ヒートシンク アセンブリをノードから取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パ ネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出してください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
  - c) 交換用 CPU に付属している T-30 トルク ドライバを使用して、アセンブリをマザーボードのスタン ドオフに固定している 4 つの非脱落型ナットを緩めます。
    - (注) ヒートシンクを水平に持ち上げるため、ヒートシンクナットを交互に均等に緩めます。ヒー トシンクナットを、ヒートシンクラベルに示されている順序(4、3、2、1)で緩めます。
  - d) CPU/ヒートシンクアセンブリをまっすぐ持ち上げ、ヒートシンクを下にして静電気防止用シートに 置きます。

図 *19: CPU*/ヒートシンク アセンブリの取り外し



1	ヒートシンク	4	マザーボード上の CPU ソケット
2	ヒートシンクの非脱落型ナット(各側 に2個)	5	T-30 トルク ドライバ
3	CPU キャリア(この図ではヒートシ ンクの下)	-	

- ステップ6 ヒートシンクを CPU アセンブリから分離します (CPU アセンブリには CPU と CPU キャリアが含まれています)。
  - a) ヒートシンクが取り付けられている状態で、CPU アセンブリを上下逆にして置きます(下の図を参照)。

サーマルインターフェイスマテリアル(TIM)ブレーカーの位置に注意してください。CPU キャリア上の小さなスロットの横に、TIM BREAKER と印字されています。

図 20: ヒートシンクと CPU アセンブリの切り離し



1	CPU キャリア	4	TIM ブレーカー スロットに最も近い位 置にある CPU キャリアの内側ラッチ
2	CPU	5	TIM ブレーカー スロットに差し込まれ ている No.1 マイナス ドライバ
3	CPUキャリアのTIM BREAKER スロット	-	

- b) TIM ブレーカー スロットに最も近い CPU キャリア内部ラッチを内側につまみ、押し上げてヒートシ ンクの角のスロットからクリップを外します。
- c) TIM BREAKER と印字されているスロットに、#1 マイナス ドライバの先端を差し込みます。
  - 注意 次のステップでは、CPUの表面を押し開けないでください。ゆっくりと回転させ、TIM ブレーカースロットの位置でCPUキャリアのプラスチック面を持ち上げます。ヒートシンク表面の損傷を防ぐため、十分注意してください。
- d) ドライバをゆっくりと回転させ、ヒートシンクの TIM が CPU から離れるまで、CPU を持ち上げま す。
  - (注) ドライバの先端で緑色の CPU 基盤に触ったり、損傷したりしないようにしてください。
- e) TIM ブレーカーの反対側の角で CPU キャリア内部ラッチをつまみ、押し上げてヒートシンクの角の スロットからクリップを外します。

- f) CPUキャリアの残りの2つの隅で、外側ラッチをゆっくりと外側に押し開け、ヒートシンクからCPU アセンブリを持ち上げます。
  - (注) CPUアセンブリを取り扱うときには、プラスチック製のキャリアだけをつかんでください。CPUの表面には触れないでください。CPUをキャリアから分離しないでください。
- **ステップ7**新しい CPU アセンブリは、CPU アセンブリツールに入った状態で出荷されます。新しい CPU アセンブリノと CPU アセンブリツールを箱から取り出します。

CPU アセンブリと CPU アセンブリ ツールが分離されている場合は、下の図に示す位置合わせ機能に注意して正しい向きに取り付けます。CPU キャリアのピン1の三角形を、CPU アセンブリ ツールの斜めになった角に合わせる必要があります。

注意 CPU とそのソケットは壊れやすいので、ピンを損傷しないように十分に注意して扱う必要があります。



図 21: CPU アセンブリ ツール、CPU アセンブリ、ヒートシンク位置合わせ機構

2	CPUアセンブリ(プラスチック製のキャ リア内の CPU)	5	キャリアの三角形の切り込み(ピン1位 置合わせ機能)
3	ヒートシンク	6	<b>CPU</b> アセンブリツールの斜めになった角 (ピン1位置合わせ機構)

- **ステップ8**新しい TIM をヒートシンクに塗布します。
  - (注) 適切に冷却されてパフォーマンスが出るように、ヒートシンクの CPU 側の表面に新しい TIM が必要です。
    - 新しいヒートシンクを取り付ける場合は、新しいヒートシンクにはTIM が塗布されたパットが付属しています。ステップ5に進みます。
    - ・ヒートシンクを再利用する場合は、ヒートシンクから古い TIM を除去してから、付属のシリンジか ら新しい TIM を CPU 表面に塗布する必要があります。次のステップに進みます。
  - a) ヒートシンクの古い TIM に、ヒートシンク クリーニング キット(UCSX-HSCK=) 付属の洗浄液を 塗布し、少なくとも 15 秒間吸収させます。
  - b) ヒートシンク クリーニング キット付属の柔らかい布を使って、古い CPU から TIM をすべてふき取ります。ヒートシンク表面に傷を付けないように注意してください。
  - c) 新しい CPU (UCS-CPU-TIM=) に付属の TIM のシリンジを使用して、CPU の上部に 1.5 立法センチ メートル (1.5ml) のサーマル インターフェイス マテリアルを貼り付けます。均一に塗布されるよう に、次に示すパターンを使用してください。



図 22:サーマル インターフェイス マテリアルの塗布パターン

- 注意 適切に冷却を行うため、ご使用の CPU に対応した正しいヒートシンクだけを使用します。 ヒートシンクには、150 W 以下の標準性能 CPU 用の UCSC-HS-C220M5=、150 W を超える 高性能 CPU 用の UCSC-HS2-C220M5= の2 種類があります。ヒートシンクのラベルに記載 されているワット数に注意してください。
- ステップ9 CPU アセンブリ ツール上に CPU アセンブリを取り付けた状態で、ヒートシンクを CPU アセンブリ上に 置きます。ピン1位置合わせ機能に注意して正しい向きに取り付けます。CPU キャリアの隅のクリップ がヒートシンクの隅にはまるときのカチッという音が聞こえるまで、ゆっくりと押し下げます。
  - **注意** 次のステップでは、CPU コンタクトや CPU ソケット ピンに触れたり損傷したりすることがな いように、十分注意してください。

- **ステップ10** CPU/ヒートシンク アセンブリをサーバに取り付けます。
  - a) CPUアセンブリツールから、ヒートシンクと、ヒートシンクに取り付けられている CPUアセンブリ を持ち上げます。
  - b) ヒートシンク付きのCPUをマザーボード上のCPUソケットの位置に合わせます(下の図を参照)。

位置合わせ機構に注意してください。ヒートシンクのピン1の斜めになった角が、CPU ソケットの ピン1の斜めになった角と合っている必要があります。CPU ソケットの支柱が、アセンブリのガイ ド穴の位置に合っている必要があります。

図 23: CPU ソケットへのヒートシンク/CPU アセンブリの取り付け



1	アセンブリのガイド穴(2 個)	4	ヒートシンクの斜めになった角(ピン 1 位置合わせ機構)
2	CPU ソケットの位置合わせ支柱(2 個)	5	ソケットの斜めになった角(ピン1位 置合わせ機構)
3	CPU ソケット リーフ スプリング	-	

c) CPU アセンブリとヒートシンクを CPU ソケットに配置します。

- d) 交換用 CPU に付属している T-30 トルク ドライバを使用して、ヒートシンクをマザーボードのスタ ンドオフに固定する 4 つの非脱落型ナットを締めます。
  - 注意 ヒートシンクを水平に下ろすため、ヒートシンク ナットを交互に均等に締めます。ヒート シンク ナットを、ヒートシンク ラベルに示されている順序(1、2、3、4)で締めます。 CPU ソケットのリーフ スプリングが平らになるように、非脱落型ナットを完全に締める必 要があります。
- e) ノードに上部カバーを戻します。
- f) ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源 をオンにします。
- **ステップ11** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ12** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ13** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

#### RMA 交換 CPU の注文に追加する CPU 関連部品

CPU の返品許可(RMA)が Cisco UCS C シリーズ サーバで行われた場合は、追加部品が CPU のスペアに含まれていないことがあります。TAC エンジニアが正常に交換を行うためには、 RMA に追加部品を追加する必要がある場合があります。

- (注) 次の項目が CPU 交換シナリオに適用されます。システム シャーシを交換し、既存の CPU を新しいシャーシに移動する場合は、CPU からヒートシンクを分離する必要はありません。RMA 交換システム シャーシの注文に追加する CPU 関連部品 (58ページ)を参照してください。
  - シナリオ1:既存のヒートシンクを再利用しています。
    - ・ヒートシンク クリーニング キット (UCSX-HSCK=)

1つのクリーニングキットで最大4つの CPU をクリーンアップできます。

• M5 サーバ用サーマルインターフェイス マテリアル (TIM) キット (UCS CPUTIM =)

1つの TIM キットが1つの CPU をカバーします。

・シナリオ2:既存のヒートシンクを交換しています。

- Â
- 注意 適切に冷却を行うため、必ずCPUに合った正しいヒートシンクを 使用してください。ヒートシンクには、150 W 以下の CPU 用の UCSC-HS-C220M5=、150 W を超える CPU 用の UCSC-HS2-C220M5=の2 種類があります。
- ・ヒートシンク:150 W 以下の CPU 用の UCSC-HS-C220M5=、150 W を超える CPU 用の UCSC-HS2-C220M5=

新しいヒートシンクには、TIM が事前に塗布されたパッドが付いています。

・ヒートシンク クリーニング キット (UCSX-HSCK=)

1 つのクリーニング キットで最大 4 つの CPU をクリーンアップできます。

- ・シナリオ3:破損した CPU キャリア (CPU の周りのプラスチックのフレーム) がある
  - ・CPU キャリア(UCS-M5-CPU-CAR=)
  - ・#1 マイナス ドライバ (ヒートシンクからの CPU の分離に使用)
  - ・ヒートシンク クリーニング キット (UCSX-HSCK=)

1つのクリーニング キットで最大 4 つの CPU をクリーンアップできます。

• M5 サーバ用サーマルインターフェイス マテリアル (TIM) キット (UCS CPUTIM =)

1つの TIM キットが1つの CPU をカバーします。

CPU ヒートシンク クリーニング キットは最大 4 CPU およびヒート シンクのクリーニングに最 適です。クリーニング キットには、古い TIM の CPU およびヒートシンクのクリーニング用 と、ヒートシンクの表面調整用の 2 本のボトルの溶液が入っています。

新しいヒートシンクのスペアには、TIMのパッドが貼り付けられています。ヒートシンクを取り付ける前に CPU の古い TIM を洗浄することが重要です。このため、新しいヒートシンクを 注文する場合でも、ヒート シンク クリーニング キットを注文する必要があります。

#### RMA 交換システム シャーシの注文に追加する CPU 関連部品

システム シャーシの返品許可(RMA)を Cisco UCS C シリーズ サーバで行った場合は、既存の CPU を新しいシャーシに移動します。



(注) 前世代の CPU とは異なり、M5 サーバの CPU では CPU ヒートシンク アセンブリを移動する際 に CPU からヒートシンクを分離する必要がありません。したがって、ヒートシンク クリーニ ング キットやサーマル インターフェイス マテリアルの品目を追加する必要はありません。 • CPU またはヒートシンク アセンブリの移動に必要なツールは T-30 トルクス ドライバのみ です。

#### M5 世代 CPU の移動

この手順に必要なツール: T-30 トルクス ドライバ

Â

- 注意 RMAにより発送される交換用サーバでは、すべてのCPUソケットにダストカバーが装着され ています。カバーは輸送中にソケットのピンを損傷から保護します。以下の手順で説明するよ うに、返品するシステムにこれらのカバーを移動させる必要があります。
- ステップ1 M5 CPU を新しいサーバに移動する場合、CPU からヒートシンクを分離する必要はありません。次の操作 を行ってください。
  - a) T-30 トルクス ドライバを使用して、ボードのスタンドオフにアセンブリを固定している 4 本のキャプ ティブ ナットを緩めます。
    - (注) ヒートシンクを水平に持ち上げるため、ヒートシンクナットを交互に均等に緩めます。ヒー トシンクナットを、ヒートシンクラベルに示されている順序(4、3、2、1)で緩めます。
  - b) CPU とヒートシンクのアセンブリをまっすぐに持ち上げて、ボードから取り外します。
  - c) ヒートシンクを外して CPU を静電気防止シートの上に置きます。

図 24: CPU/ヒートシンク アセンブリの取り外し



1	ヒートシンク	4	マザーボード上の CPU ソケット
2	ヒートシンクの非脱落型ナット(各側 に2個)	5	T-30 トルク ドライバ
3	CPUキャリア(この図ではヒートシン クの下)	-	

- **ステップ2**新しいシステムから返品するシステムに CPU ソケット カバーを移動させます。
  - a) ソケットカバーを交換用システムから取り外します。「REMOVE」マークが付けられた2個のくぼみ をつかみ、真っ直ぐに持ち上げます。
    - (注) カバーの両端のくぼみをしっかりとつかんでください。CPU ソケットのピンに触れないでく ださい。

図 25: CPU ソケット ダスト カバーの取り外し



- b) ダストカバーの文字が書かれた面を上にして、CPU ソケットの上に装着します。カバーの穴開き部分 がソケット プレート上のすべての位置合わせ支柱に合っていることを確認します。
  - **注意** 次の手順で記述されている2ヵ所以外、カバー上のどこも押さないでください。他の場所を 押すとソケットのピンが損傷する危険性があります。
- c) 2つのネジ式支柱の近くにある「INSTALL」の横の2つの丸いマークを押し下げます(次の図を参照)。カチッという音が聞こえ、装着された感触がするまで押します。
  - (注) 輸送中にダストカバーが緩まないようにするため、カチッという音と感触がするまで押す必要があります。



ステップ3 新しいシステムに CPU を取り付けます。

a) 新しいボード上で、次に示すように、CPU ソケット上にアセンブリの位置を合わせます。

位置合わせ機構に注意してください。ヒートシンクのピン1の斜めになった角が、CPU ソケットのピン1の斜めになった角と合っている必要があります。CPU ソケットの支柱が、アセンブリのガイド穴の位置に合っている必要があります。



図 27: CPU ソケットへのヒートシンク/CPU アセンブリの取り付け

1	アセンブリのガイド穴(2 個)	4	ヒートシンクの斜めになった角(ピン1 位置合わせ機構)
2	CPU ソケットの位置合わせ支柱(2 個)	5	ソケットの斜めになった角(ピン1位置 合わせ機構)
3	CPU ソケット リーフ スプリング	-	

- b) 新しいボード上で、CPUとヒートシンクのアセンブリを CPU ソケットに配置します。
- c) T-30 トルクス ドライバを使用して、ヒートシンクをボードのスタンドオフに固定する 4 本のキャプ ティブ ナットを締め付けます。
  - (注) ヒートシンクを水平に下ろすため、ヒートシンクナットを交互に均等に締めます。ヒートシンクナットを、ヒートシンクラベルに示されている順序(1、2、3、4)で締めます。CPUソケットのリーフスプリングが平らになるように、非脱落型ナットを完全に締める必要があります。

## ミニストレージ モジュールまたは M2 ブート ドライブの交換

ミニストレージモジュールをマザーボードのソケットに差し込むことにより、M.2SSD内部ストレージを追加します。このノードに内蔵されている SATA M.2 SDD は、ブート ドライブとして使用できます。

#### ミニストレージ モジュール キャリアの交換

ここでは、ミニストレージモジュールキャリアの取り外しと取り付けについて説明します。

- **ステップ1** HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ2** ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ5** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ6** ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ1** ソケットからキャリアを取り外します。
  - a) 電源装置1の前のソケットに装着されているミニストレージ モジュール キャリアを見つけます。
  - b) キャリアの両端で、キャリアを固定しているクリップを外側に押します。
  - c) キャリアの両端を持ち上げ、マザーボードのソケットから外します。
  - d) キャリアを静電気防止シートの上に置きます。
- **ステップ8** キャリアをそのソケットに取り付けます。
  - a) キャリアのコネクタを下向きにし、マザーボードのソケットと同じ端で、キャリアをソケット上に 置きます。2つの位置合わせペグが、キャリアの2つの穴の位置に合っている必要があります。
  - b) 2つのペグがキャリアの2つの穴を通過するように、キャリアのソケットの端をゆっくりと押し下げ ます。
  - c) 固定クリップが両端でカチッと音がしてロックされるまで、キャリアを押し下げます。
- **ステップ9** サーバに上部カバーを戻します。
- **ステップ10** サーバをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源を完 全に投入します。

図 28: ミニストレージ モジュール キャリア



- **ステップ11** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- ステップ12 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ13** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

#### M.2 用ミニストレージ キャリア内の M.2 SSD の交換

ここでは、M.2 用ミニストレージキャリア(UCS-MSTOR-M2)内のM.2 SSDを取り外して交換する手順について説明します。

- ステップ1 ミニストレージモジュールキャリアの交換(64ページ)の説明に従い、ノードをHXメンテナンスモードにし、ノードをシャットダウンしてデコミッションし、ミニストレージモジュールキャリアを取り外します。
- ステップ2 M.2 SSD を取り外します。
  - a) No.1 プラス ドライバを使用して、M.2 SSD をキャリアに固定している1本のネジを取り外します。
  - b) M.2 SSD をキャリアのソケットから取り外します。

- ステップ3 新しい M.2 SSD を取り付けます。
  - a) M.2 SSD を下に向け、コネクタの終端をキャリアのソケットに挿入します。M.2 SSD のラベルが上向 きになっている必要があります。
  - b) M.2 SSD をキャリアに押し込みます。
  - c) M.2 SSD の終端をキャリアに固定する1本のネジを取り付けます。
- ステップ4 ミニストレージモジュールキャリアの交換(64ページ)の説明に従い、ミニストレージモジュールキャ リアをノードに取り付け直し、ノードを再稼働し、そのプロファイルを再度関連付け、HX メンテナンス モードを終了します。

## RTCバッテリの交換

## Â

警告 バッテリを正しく交換しないと、爆発するおそれがあります。交換用バッテリは元のバッテリ と同じものか、製造元が推奨する同等のタイプのものを使用してください。使用済みのバッテ リは、製造元が指示する方法に従って処分してください。

ステートメント 1015

リアルタイムクロック(RTC)バッテリは、ノードの電源が外れているときにシステムの設定 を保持します。バッテリタイプはCR2032です。シスコでは、シスコに注文でき(PID N20-MBLIBATT)、ほとんどの電器店からも購入できる、業界標準のCR2032バッテリをサ ポートしています。

- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノード をデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上を 流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを取り 外す必要があります。
- ステップ4 すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 RTC バッテリを取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出し てください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。

- c) RTC バッテリの位置を確認します。垂直ソケットは、PCIe ライザー2の正面にあります。
- d) マザーボード上のソケットからバッテリを取り外します。片側の固定クリップをゆっくりと開けて隙 間を空け、バッテリをまっすぐ持ち上げます。

**ステップ6**新しい RTC バッテリを取り付けます。

- a) バッテリをホルダーに挿入し、カチッという音がするまでクリップの下に押し込みます。
  - (注) バッテリのプラス側(「3v+」の刻印が付いた平らな側)がサーバの正面から見て左向きに なるようにしてください。
- b) ノードに上部カバーを戻します。
- c) ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源を オンにします。

図 29:マザーボード上の RTC バッテリの場所



垂直ソケットの RTC バッテリ

- ステップ7 Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノー ドを再稼働します。
- ステップ8 HX ノードとサービスプロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サー ビスプロファイルに関連付けます。
- **ステップ9** ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モー ドを終了します。

## 電源装置の交換

ノードには1つまたは2つの電源装置を使用できます。2つの電源装置を設置している場合、 それらの電源装置は1+1 冗長です。

- ・サポートされている電源装置の詳細については、電力仕様 (98ページ) も参照してくだ さい。
- ・電源 LED の詳細については、背面パネルの LED (22 ページ) も参照してください。
- ここでは、AC 電源ユニットの交換手順について説明します。

#### AC 電源装置の交換

(注)

2台の電源装置が設置されている場合は、1+1として冗長なため、電源装置を交換するときに サーバの電源をオフにする必要がありません。

- (注) サーバでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合わせて使用しないでください。両方 の電源装置が同じである必要があります。
- ステップ1 次のようにして、交換する電源装置を取り外します。
  - a) 次のいずれかの操作を実行します。
    - ノードに電源装置が2台ある場合は、ノードをシャットダウンする必要はありません。手順2に 進みます。
    - ノードに1つの電源しかない場合は、次の手順を実行します。
    - HX メンテナンスモードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従っ て、ノードを Cisco HX メンテナンスモードにします。
    - 2. ノードのシャットダウンと電源切断 (25 ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウン します。
    - **3.** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使 用してノードをデコミッションします。
- ステップ2 交換する電源装置から、電源コードを取り外します。
- ステップ3 電源装置のハンドルをつかみながら、リリース レバーをハンドルに向けてひねります。
- ステップ4 電源装置をベイから引き出します。
- **ステップ5** 次のようにして、新しい電源装置を取り付けます。
  - a) 電源装置のハンドルをつかみ、空のベイに新しい電源装置を挿入します。

- b) リリース レバーがロックされるまで、電源装置をベイに押し込みます。
- c) 電源コードを新しい電源装置に接続します。
- **ステップ6** ノードをシャットダウンする場合にのみ、次の手順を実行します。
  - a) Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用して ノードを再稼働します。
  - b) HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
  - c) ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モードを終了します。

図 30:AC 電源装置の交換



### DC 電源装置の交換



- (注) サーバでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合わせて使用しないでください。両方 の電源装置が同じである必要があります。
- ステップ1 次のようにして、交換する電源装置を取り外します。
  - a) 次のいずれかの操作を実行します。
    - ノードに電源装置が2台ある場合は、ノードをシャットダウンする必要はありません。手順2に 進みます。
    - ノードに1つの電源しかない場合は、次の手順を実行します。
    - HX メンテナンスモードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従っ て、ノードを Cisco HX メンテナンスモードにします。
    - 2. ノードのシャットダウンと電源切断 (25 ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウン します。
    - **3.** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使 用してノードをデコミッションします。
- ステップ2 交換する電源装置から、電源コードを取り外します。固定クリップを少し持ち上げて、電源装置のソケットからコネクタを引き抜きます。
- ステップ3 電源装置のハンドルをつかみながら、リリースレバーをハンドルに向けてひねります。
- ステップ4 電源装置をベイから引き出します。
- **ステップ5** 次のようにして、新しい電源装置を取り付けます。
  - a) 電源装置のハンドルをつかみ、空のベイに新しい電源装置を挿入します。
  - b) リリース レバーがロックされるまで、電源装置をベイに押し込みます。
  - c) 電源コードを新しい電源装置に接続します。固定クリップでカチッと音がするまで、コネクタをソケットに押し込みます。
- **ステップ6** ノードをシャットダウンする場合にのみ、次の手順を実行します。
  - a) Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用して ノードを再稼働します。
  - b) HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
  - c) ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モードを終了します。
#### 図 31: DC 電源装置の交換



### DC 電源ユニットの接地

AC 電源装置は内部アースがあるため、サポート対象の AC 電源コードを使用する場合は、それ以上接地する必要はありません。

DC電源装置を使用する場合は、サーバシャーシからラックのアースグラウンドへの追加の接 地を行うことができます。デュアルホールアースラグおよびアース線で使用するネジ穴(2 個)は、シャーシの背面パネルにあります。

(注) シャーシの接地点はM5ネジに合う大きさです。独自のネジ、アースラグとアース線を提供する必要があります。アースラグは、M5ネジに合ったデュアルホールラグである必要があります。ユーザが提供するアースケーブルは14 AWG(2 mm)、最低60℃のワイヤか、現地の規定で許可されるものでなければなりません。

## PCle カードの交換



(注) シスコでは、シスコが認定および販売しているすべての PCIe カードをサポートしています。 シスコが認定も販売もしていない PCIe カードについては、お客様の責任でご使用ください。 シスコでは、ノードのサポートは常時行っておりますが、市販の標準規格のサードパーティ カードを使用しているお客様は、そのサードパーティのカードで問題が発生した場合、その カードのベンダーにご連絡していただく必要があります。

### PCle スロットの仕様

ノードには、PCIe カードを水平に取り付けるための1つのライザーアセンブリ上に PCIe ス ロットが2つあります。両方のスロットが NCSI プロトコルと12Vのスタンバイ電源をサポー トしています。

図 32:背面パネル、PCle スロットの番号付け



次の表で、スロットの仕様について説明します。

表 7: PCle ライザー 1/スロット 1

スロット番号	電気路の 幅	コネクタの長 さ	カードの最大 長	カードの高さ(背面パネル開 口部)	NCSIのサポート
1	Gen-3 x16	x24 コネクタ	¾ レングス	フルハイト	あり
microSD カードスロット	microSD カード用ソケット X 1				

#### 表 8: PCle ライザー 2/スロット 2

スロット番号	電気路の 幅	コネクタの長さ	カードの最大長	カードの高さ(背面パ ネル開口部)	NCSI のサポート
2	Gen-3 x16	x24 コネクタ	ハーフ レングス	ハーフハイト	Yes
前面パネルの NVMe SSDの PCIe ケーブル コネクタ	Gen-3 x8	ケーブルの他方の端は、前面パネルの NVMe SSD をサポートする前面のドライブ バックプレーンに接続します。			

### PCle カードの交換

- (注) 別の mRAID ライザーに HBA コントローラ カードを取り付けます。SAS ストレージ コント ローラ カード (HBA) の交換 (78ページ) を参照してください。

# 

(注) 交換するカードが Cisco VIC 1455 (HX-PCIE-C25Q-04)の場合は、このカードに Cisco HX 4.0 (1a)
 以降が必要であることに注意してください。

- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノード をデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上を 流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを取り 外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 PCIe ライザーから既存の PCIe カード(またはブランクパネル)を取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出し てください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従って、ノードから上部カバーを取り外します。
  - c) 交換する PCIe カードのポートから、すべてのケーブルを外します。
  - d) 両手を使って、外部ライザーハンドルとライザー前面の青い領域をつかみます。
  - e) まっすぐ持ち上げて、ライザーのコネクタをマザーボード上の2つのソケットから外します。ライザー を上下逆にして静電気防止シートの上に置きます。
  - f) カードの背面パネル タブを固定しているヒンジ付きプラスチック製固定具を開きます。
  - g) PCIe カードの両端を均等に引いて、PCIe ライザーのソケットから取り外します。 ライザーにカードがない場合は、ライザーの背面の開口部からブランクパネルを取り外します。
- ステップ6 次のようにして、新しい PCIe カードを取り付けます。
  - a) ヒンジ付きプラスチック製固定具を開いた状態で、新しい PCIe カードを PCIe ライザーの空ソケット の位置に合わせます。

PCIe ライザー1/スロット1には、ライザーの前端に長いカードガイドがあります。長いカードガイド 内のスロットは、フルレングスカードをサポートします。

- b) カードの両端を均等に押し下げて、ソケットにしっかりと装着します。
- c) カードの背面パネルタブがライザーの背面パネルの開口部に対して水平であることを確認したら、カードの背面パネルタブでヒンジ付きタブ固定具を閉じます。

図 *33 : PCle* ライザー アセンブリ



1	PCIeスロット1の背面パネルの開口部	4	ヒンジ付きカード固定具(各スロットに 1 つ)
2	外部ライザー ハンドル	5	前面パネルの NVMe SSD をサポートす るケーブルの PCIe コネクタ
3	PCIe スロット2の背面パネルの開口部		

d) PCIe ライザーを、マザーボード上の2つのソケットと2つのシャーシ位置合わせチャネルの上に配置 します。





- e) PCIe ライザーの両端を慎重に押し下げて、2 つのコネクタをマザーボード上の2 つのソケットにしっ かりと差し込みます。
- f) ノードに上部カバーを戻します。
- g) ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源を オンにします。
- **ステップ7** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- ステップ8 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ9** ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モードを終了します。

### **mLOM** カードの交換

ノードではモジュラ LOM (mLOM) カードがサポートされています。これにより、Cisco VIC アダプタなどの追加の背面パネル接続が可能になります。マザーボードの mRAID ライザーの下に、水平 mLOM ソケットがあります。

MLOM ソケットには、Gen-3 x16 の PCIe レーンがあります。ノードが 12 V のスタンバイ電源 モードであり、ネットワーク通信サービス インターフェイス (NCSI) プロトコルをサポート している場合、ソケットには電源がついたままになります。

- (注) 交換するカードが Cisco VIC 1457 (HX MLOM-UCSC-MLOM-C25Q-04-04)の場合は、このカー ドに Cisco HX 4.0 (1a)以降が必要であることに注意してください。
- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノード をデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上を 流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを取り 外す必要があります。
- ステップ4 すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 既存の mLOM カード(またはブランクパネル)を取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出し てください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
  - c) ライザーの下の mLOM ソケットにアクセスできるように、mRAID ライザーを取り外します。

mRAID ライザーを取り外すには、両手を使って背面の青い外部ハンドルと前面の青いつまみをつかみます。まっすぐ持ち上げます。

ライザーに取り付けられているHBAカードからケーブルを取り外す必要はありません。スペースを確保するのに必要なだけ、ライザーを慎重に横に移動します。

- d) mLOM カードをシャーシ床面のネジ付きスタンドオフに固定している取り付けネジ(蝶ネジ)を緩めます。
- e) mLOM カードを水平方向にスライドさせてソケットから外し、ノードから取り外します。
- ステップ6 新しい mLOM カードを取り付けます。
  - a) コネクタをマザーボードのソケットの位置に合わせて、シャーシ床面に mLOM カードを置きます。
  - b) カードを水平方向に押し、カードのエッジコネクタをソケットと完全にかみ合わせます。
  - c) 取り付けネジ(蝶ネジ)を締めて、カードをシャーシ床面のスタンドオフに固定します。
  - d) mRAID ライザーをソケットに戻します。

mRAIDライザーのエッジコネクタを慎重にマザーボードのソケットの位置に合わせ、同時にライザー の2つのチャネルを内側シャーシ側面の2つのペグの位置に合わせます。ライザーの両端を均等に押 し下げて、コネクタをマザーボードのソケットにしっかりと差し込みます。

e) ノードに上部カバーを戻します。

f) ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源を オンにします。

図 35: mRAID ライザーの下の mLOM カード ソケットの場所



- **ステップ7** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- ステップ8 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ9** ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モードを終了します。

# SAS ストレージ コントローラ カード(HBA)の交換

ハードウェアベースのストレージ管理では、ノードに、専用のmRAID ライザー(内部ライザー 3)の水平ソケットに差し込む SAS HBA を使用できます。

### ストレージ コントローラ カードのファームウェアの互換性

ストレージ コントローラ HBA 上のファームウェアに、ノード上にインストールされている Cisco IMC および BIOS の現行バージョンとの互換性があることを確認する必要があります。 互換性がない場合は、Host Upgrade Utility(HUU)を使用して、ストレージ コントローラの ファームウェアを互換性のあるレベルにアップグレードまたはダウングレードしてください。 このユーティリティをダウンロードする方法、およびこのユーティリティを使用してノードコ ンポーネントを互換性のあるレベルにする方法については、HUU ガイドに用意されている、 ご使用の Cisco IMC リリースに対応する HUU ガイドを参照してください。

### SAS ストレージ コントローラ カード(HBA)の交換

- **ステップ1** HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノー ドをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 次のようにして、ノードでコンポーネントを取り付ける準備をします。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パ ネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出してください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ6** mRAID ライザー (ライザー3) をサーバから取り外します。
  - a) 両手を使って、ライザーの背面の青い外部ハンドルとライザーの前面の青いつまみをつかみます。
  - b) ライザーをまっすぐ持ち上げて、マザーボードのソケットから外します。
  - c) ライザーを上下逆にして静電気防止シートの上に置きます。
- **ステップ1** ライザーから既存のカードを取り外します。
  - a) 既存のカードからケーブルを外します。
  - b) カードの背面にある青いカードイジェクトレバーを開き、ライザーのソケットから取り出します。
  - c) ライザーからカードを引き出し、横に置きます。
- **ステップ8** 新しいストレージ コントローラ カードをライザーに取り付けます。
  - a) ライザーを上下逆にして、ライザー上にカードを設定します。
  - b) カードの両方の角を押して、コネクタをライザーソケットに装着します。
  - c) カードのカード イジェクト レバーを閉じて、ライザーに固定します。
  - d) 取り付けたカードにケーブルを接続します。
- **ステップ9** ノードにライザーを戻します。
  - a) ライザーのコネクタをマザーボードのソケットの位置に合わせます。同時に、ブラケットの後ろに ある2つのスロットを、内側シャーシ側面の2つのペグの位置に合わせます。

- b) ライザーコネクタをゆっくりと押し下げて、マザーボードソケットに収納します。金属製ライザー ブラケットは、内側シャーシの側面に固定する2つのペグも収納する必要があります。
- **ステップ10** ノードに上部カバーを戻します。
- **ステップ11** ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源をオンにします。

図 36: mRAID ライザー (内部ライザー 3) の場所



1	青い外部ハンドル	3	カードイジェクト レバー
2	内側シャーシ側面の2つのペグ	-	

- **ステップ12** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ13** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ14** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

## microSD カードの交換

PCIe ライザー1の上部に、microSD カード用のソケットが1つあります。

⚠

- 注意 データの損失を避けるため、動作中(アクティビティ LED がオレンジ色に変化)に microSD カードをホット スワップすることは避けてください。アクティビティ LED は、microSD カードが更新中または削除中にオレンジ色に変化します。
- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノードを Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノード をデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上を 流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを取り 外す必要があります。
- ステップ4 すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 既存の microSD カードを取り外します。
  - a) 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネ ルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
    - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出し てください。
  - b) ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
  - c) microSD カードを見つけます。ソケットは、PCIe ライザー1の上部の柔軟なプラスチック製カバーの下にあります。
  - d) ソケットカバーの固定具を指先で十分に押し開いて microSD カードにアクセスし、microSD カードを 押し下げて放すとカードが飛び出します。
  - e) microSD カードをつかみ、ソケットから持ち上げます。
- ステップ6 新しい microSD カードを装着します。
  - a) プラスチック製カバーの固定具を指先で開いたまま、新しい microSD カードをソケットの位置に合わ せます。
  - b) カチッと音がしてソケットの所定の位置にロックされるまで、カードをゆっくりと押し下げます。
  - c) ノードに上部カバーを戻します。
  - d) ノードをラックの元の位置に戻し、ケーブルを再度接続したら、電源ボタンを押してノードの電源を オンにします。

図 37: 内部 microSD カード ソケット



1	PCIe ライザー 1 上部の microSD カード ソケットの場所	3	プラスチック製固定具(押し開いてソケッ トにアクセスします)
2	プラスチック製固定具の下の microSD カード ソケット	4	microSD アクティビティ LED

- **ステップ7** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働 (29 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- ステップ8 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ9** ESXi リブート後に、HX メンテナンス モードの終了 (29 ページ)の説明に従って HX メンテナンス モードを終了します。

# サービス ヘッダーおよびジャンパ

このノードは、特定のサービスおよびデバッグ機能のジャンパを設定できる2つのヘッダーブ ロック(J38、J39)を備えています。



図 <b>38</b> :サービス ヘッダー	ブロック	<b>J38</b> および	<b>J39</b> の場所
------------------------	------	----------------	----------------

1	ヘッダーブロック J38 の場所	6	ヘッダーブロック J39 の場所
2	J38 ピン1の矢印(マザーボード上に印字)	7	J39 ピン1の矢印(マザーボード上に印字)
3	CMOS をクリア:J38 ピン 9 ~ 10	8	代替イメージから Cisco IMC を起動: J39 ピン 1 ~ 2
4	BIOS を回復:J38 ピン 11 ~ 12	9	Cisco IMC のパスワードをデフォルトにリセット: J39 ピン 3 ~ 4
5	パスワードをクリア : J38 ピン 13 ~ 14	10	Cisco IMC をデフォルトにリセット: J39 ピン 5 ~ 6

# **CMOS** クリア ヘッダー (J38、ピン9~10)の使用

このヘッダーで、システムがハングアップしたときにノードのCMOS設定をクリアできます。 たとえば、設定が正しくないためにノードがハングアップしてブートしなくなった場合に、こ のジャンパを使って設定を無効化し、デフォルト設定を使って再起動できます。

⚠

- 注意 CMOSをクリアすることによってカスタマイズされた設定が削除されるため、データが失われ ることがあります。このCMOSのクリア手順を使用する前にBIOSに必要なカスタマイズされ た設定を書き留めます。
- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25 ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- ステップ5 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネルからケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出して ください。
- **ステップ6** ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
- **ステップ7** ヘッダーブロック J38 とピン9~10の場所を確認します。
- ステップ8 ピン9と10の間に2ピンのジャンパを取り付けます。
- **ステップ9** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度ノードに取り付けます。ノードの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ10** 前面パネルの電源ボタンを押して、ノードを主電源モードに戻します。電源LED が緑色になれば、ノードは主電源モードです。
  - (注) リセットを完了するには、ノード全体が再起動して主電源モードになるようにする必要があり ます。ホスト CPU が実行されていないと、ジャンパの状態は判別できません。
- **ステップ11** 電源ボタンを押し、ノードをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、電流が流れないようにす るために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ12** ノードの上部カバーを外します。
- ステップ13 取り付けたジャンパを取り外します。
  - (注) ジャンパを取り外さないと、ノードの電源を再投入するたびに CMOS 設定がデフォルトにリ セットされます。
- **ステップ14** 上部カバーを交換し、ラックのノードを交換し、電源コードおよびその他のケーブルを交換したら、電 源ボタンを押してノードの電源をオンにします。

- **ステップ15** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ16** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ17** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

## BIOS リカバリ ヘッダー (J38、ピン 11 ~ 12)の使用

どのステージで BIOS が破損しているかにより、さまざまな動作が発生することがあります。

•BIOS BootBlock が破損すると、システムが次のメッセージで停止する場合もあります。

Initializing and configuring memory/hardware

・ブートブロック以外が破損している場合は、次のようなメッセージが表示されます。

\*\*\*\*BIOS FLASH IMAGE CORRUPTED\*\*\*\*
Flash a valid BIOS capsule file using Cisco IMC WebGUI or CLI interface.
IF Cisco IMC INTERFACE IS NOT AVAILABLE, FOLLOW THE STEPS MENTIONED BELOW.
1. Connect the USB stick with bios.cap file in root folder.
2. Reset the host.
IF THESE STEPS DO NOT RECOVER THE BIOS
1. Power off the system.
2. Mount recovery jumper.
3. Connect the USB stick with bios.cap file in root folder.
4. Power on the system.
Wait for a few seconds if already plugged in the USB stick.
REFER TO SYSTEM MANUAL FOR ANY ISSUES.

(注) 上部に表示されるメッセージによって示されるように BIOS を回復するには、2 種類の方法が あります。まず、手順1を試行します。この手順で BIOS が回復しない場合は、手順2を使用 します。

#### 手順1: bios.cap ファイルを使った再起動

- ステップ1 BIOS 更新パッケージをダウンロードし、一時的な場所に保存して展開します。
- **ステップ2**展開したリカバリフォルダ内のファイルを、USBドライブのルートディレクトリにコピーします。リカ バリフォルダにはこの手順に必要な bios.capファイルが含まれます。
  - (注) bios.cap ファイルは、USB ドライブのルートディレクトリにある必要があります。このファイル の名前を変更しないでください。USB ドライブは、FAT16 または FAT32 ファイル システムで フォーマットする必要があります。
- ステップ3 USB ドライブをノードの USB ポートに挿入します。
- **ステップ4** ノードをリブートします。

**ステップ5**前面パネルの電源ボタンを押して、ノードを主電源モードに戻します。

ノードが、更新された BIOS ブートブロックでブートします。BIOS が USB ドライブの有効な bios.cap ファ イルを検出すると、次のメッセージが表示されます。

Found a valid recovery file...Transferring to Cisco IMC System would flash the BIOS image now... System would restart with recovered image after a few seconds...

- **ステップ6** ノードの BIOS 更新が完了するのを待ってから、USB ドライブをノードから取り外します。
  - (注) BIOS の更新中に、Cisco IMC はノードをシャットダウンし、画面が約 10 分間空白になります。
     更新中は、電源コードを外さないでください。更新が完了すると、Cisco IMC はノードの電源を 投入します。

### 手順2: BIOS リカバリ ヘッダーおよび bios.cap ファイルの使用

- **ステップ1** BIOS 更新パッケージをダウンロードし、一時的な場所に保存して展開します。
- **ステップ2** 展開したリカバリフォルダ内のファイルを、USBドライブのルートディレクトリにコピーします。リカ バリフォルダにはこの手順に必要な bios.cap ファイルが含まれます。
  - (注) bios.cap ファイルは、USB ドライブのルート ディレクトリにある必要があります。このファイ ルの名前を変更しないでください。USB ドライブは、FAT16 または FAT32 ファイル システム でフォーマットする必要があります。
- ステップ3 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ4** ノードのシャットダウンと電源切断 (25 ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ5** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノー ドをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ6** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ7** 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出して ください。
- **ステップ8** ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
- **ステップ9** ヘッダーブロック J38 とピン 11 ~ 12 の場所を確認します。
- **ステップ10** ピン11と12の間に2ピンのジャンパを取り付けます。
- ステップ11 AC 電源コードをノードに再度取り付けます。ノードの電源がスタンバイ電源モードになります。

- **ステップ12** ステップ2で準備した USB メモリをノードの USB ポートに挿入します。
- **ステップ13** 前面パネルの電源ボタンを押して、ノードを主電源モードに戻します。

ノードが、更新された BIOS ブート ブロックでブートします。BIOS が USB ドライブの有効な bios.cap ファイルを検出すると、次のメッセージが表示されます。

Found a valid recovery file...Transferring to Cisco IMC System would flash the BIOS image now... System would restart with recovered image after a few seconds...

- **ステップ14** ノードの BIOS 更新が完了するのを待ってから、USB ドライブをノードから取り外します。
  - (注) BIOSの更新中に、Cisco IMCはノードをシャットダウンし、画面が約10分間空白になります。
     更新中は、電源コードを外さないでください。更新が完了すると、Cisco IMCはノードの電源を 投入します。
- **ステップ15** ノードが完全にブートした後に、ノードの電源を再び切り、すべての電源コードを外します。
- **ステップ16** 取り付けたジャンパを取り外します。
  - (注) リカバリ完了後にジャンパを取り外さない場合、「Please remove the recovery jumper」と表示されます。
- **ステップ17** 上部カバーを交換し、ラックのノードを交換し、電源コードおよびその他のケーブルを交換したら、電 源ボタンを押してノードの電源をオンにします。
- **ステップ18** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ19** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ20** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

## パスワードクリアヘッダー(J38、ピン13~14)の使用

このヘッダーを使用すると、管理者パスワードをクリアできます。

- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ2** ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - **注意** ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。

- **ステップ5** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ6** ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ1** ヘッダーブロック J38 とピン 13 ~ 14 の場所を確認します。
- ステップ8 ピン13と14の間に2ピンのジャンパを取り付けます。
- **ステップ9** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ10** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源LED が緑色になれば、サーバは主電源モードです。
  - (注) リセットを完了するには、サーバ全体が再起動して主電源モードになるようにする必要があり ます。ホスト CPU が実行されていないと、ジャンパの状態は判別できません。
- **ステップ11** 電源ボタンを押し、サーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、電流が流れないようにす るために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ12** サーバの上部カバーを外します。
- ステップ13 取り付けたジャンパを取り外します。

(注) ジャンパを取り外さないと、サーバの電源を入れ直すたびにパスワードがクリアされます。

- **ステップ14** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。
- **ステップ15** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ16** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ17** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

## Cisco IMC 代替イメージ起動ヘッダー(J39、ピン1~2)の使用

この Cisco IMC デバッグ ヘッダーを使用して、Cisco IMC 代替イメージからシステムを強制的 に起動することができます。

- **ステップ1** HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25 ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。

- 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- ステップ4 すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ5** 上部カバーを取り外せるように、ノードをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからノードを取り出して ください。
- **ステップ6** ノード上部カバーの取り外し (30ページ)の説明に従ってノードから上部カバーを取り外します。
- **ステップ7** ヘッダーブロック J39 とピン1~2の場所を確認します。
- **ステップ8** J39 のピン1と2の間に2 ピンのジャンパを取り付けます。
- **ステップ9** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度ノードに取り付けます。ノードの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- ステップ10 前面パネルの電源ボタンを押して、ノードを主電源モードに戻します。電源LEDが緑色になれば、ノードは主電源モードです。
  - (注) 次回 Cisco IMC にログインすると、次のようなメッセージが表示されます。

'Boot from alternate image' debug functionality is enabled. CIMC will boot from alternate image on next reboot or input power cycle.

- **ステップ11** 電源ボタンを押し、ノードをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、電流が流れないようにす るために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ12** ノードの上部カバーを外します。
- **ステップ13** 取り付けたジャンパを取り外します。
  - (注) ジャンパを取り外さないと、ノードの電源を再投入するか、または Cisco IMC を再起動するたびに、Cisco IMC 代替イメージからノードが起動します。
- ステップ14 上部カバーを交換し、ラックのノードを交換し、電源コードおよびその他のケーブルを交換したら、電源ボタンを押してノードの電源をオンにします。
- **ステップ15** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ16** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ17** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

# **Cisco IMC** パスワード デフォルト リセット ヘッダー (**J39**、ピン**3**~ 4) の使用

この Cisco IMC デバッグ ヘッダーを使用して、Cisco IMC パスワードを強制的にデフォルトに 戻すことができます。

- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- **ステップ2** ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- ステップ4 すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ5** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- **ステップ6** ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ1** ヘッダーブロック J39 とピン3~4の場所を確認します。
- **ステップ8** J39 ピン3および4に2 ピンジャンパを取り付けます。
- **ステップ9** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ10** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源LEDが緑色になれば、サーバは主電源モードです。
  - (注) 次回 Cisco IMC にログインすると、次のようなメッセージが表示されます。

'Reset to default CIMC password' debug functionality is enabled. On input power cycle, CIMC password will be reset to defaults.

- **ステップ11** 電源ボタンを押し、サーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、電流が流れないようにす るために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ12** サーバの上部カバーを外します。
- ステップ13 取り付けたジャンパを取り外します。
  - (注) このジャンパを取り外さないと、サーバの電源を入れ直すたびにCiscoIMCパスワードがデフォ ルトにリセットされます。Cisco IMC をリブートする場合、このジャンパは影響しません。

- **ステップ14** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。
- **ステップ15** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- ステップ16 HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- **ステップ17** ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了(29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

### **Cisco IMC** デフォルト リセット ヘッダー (J39、ピン5~6)の使用

この Cisco IMC デバッグ ヘッダーを使用して、Cisco IMC 設定を強制的にデフォルトに戻すこ とができます。

- ステップ1 HX メンテナンス モードでの vSphere を使用したシャットダウン (27 ページ)の記述に従って、ノード を Cisco HX メンテナンス モードにします。
- ステップ2 ノードのシャットダウンと電源切断 (25ページ)の説明に従って、ノードをシャットダウンします。
- **ステップ3** Cisco UCS Manager を使用したノードの停止 (25 ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードをデコミッションします。
  - 注意 ノードがシャットダウンされてスタンバイ電源モードになった後も、電流は引き続きノード上 を流れ続けます。完全に電源を取り外すには、ノード内の電源装置からすべての電源コードを 取り外す必要があります。
- **ステップ4** すべての電源装置からすべての電源ケーブルを外します。
- **ステップ5** 上部カバーを取り外せるように、サーバをラックの前方に引き出します。場合によっては、背面パネル からケーブルを取り外して隙間を空ける必要があります。
  - **注意** コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからサーバを取り出して ください。
- ステップ6 ノード上部カバーの取り外し(30ページ)の説明に従ってサーバから上部カバーを取り外します。
- **ステップ1** ヘッダーブロック J39 とピン5~6の場所を確認します。
- **ステップ8** J39 ピン5 および6 に 2 ピン ジャンパを取り付けます。
- **ステップ9** 上部カバーと AC 電源コードをもう一度サーバに取り付けます。サーバの電源がスタンバイ電源モード になり、前面パネルの電源 LED がオレンジ色に点灯します。
- **ステップ10** 前面パネルの電源ボタンを押して、サーバを主電源モードに戻します。電源LEDが緑色になれば、サーバは主電源モードです。
  - (注) 次回 Cisco IMC にログインすると、次のようなメッセージが表示されます。

'CIMC reset to factory defaults' debug functionality is enabled. On input power cycle, CIMC will be reset to factory defaults.

- ステップ11 ジャンパを取り外すには、電源ボタンを押しサーバをシャットダウンしてスタンバイ電源モードにし、 電流がまったく流れないようにするために AC 電源コードを抜きます。
- **ステップ12** サーバの上部カバーを外します。
- ステップ13 取り付けたジャンパを取り外します。
  - (注) ジャンパを取り外さないと、サーバの電源を再投入するたびに Cisco IMC がデフォルト設定に リセットされます。Cisco IMC をリブートする場合、このジャンパは影響しません。
- **ステップ14** 上部カバーを再度取り付け、サーバをラックに元どおりに配置し、電源コードおよびその他のケーブル を再度接続したら、電源ボタンを押してサーバの電源をオンにします。
- **ステップ15** Cisco UCS Manager を使用したノードの再稼働(29ページ)の説明に従い、UCS Manager を使用してノードを再稼働します。
- **ステップ16** HX ノードとサービス プロファイルの関連付け (29 ページ)の説明に従って、ノードを UCS Manager サービス プロファイルに関連付けます。
- ステップ17 ESXi リブート後に、HX メンテナンスモードの終了 (29ページ)の説明に従ってHX メンテナンスモードを終了します。

# スタンドアロン モードでのノードの設定



(注) HX シリーズノードは、UCS Manager による制御モードで常に管理されます。この項は、トラブルシューティングのためにノードをスタンドアロンモードにする必要がある場合のみ含まれます。HX シリーズノードの通常運用にはこの設定を使用しないでください。

## ノードの初期設定(スタンドアロン)



(注) ここでは、ノードをスタンドアロンモードで使用する場合のノードの電源投入方法、IPアドレスの割り当て方法、ノード管理への接続方法について説明します。

#### ノードのデフォルト設定

ノードは次のデフォルト設定で出荷されます。

•NIC モードは Shared LOM EXT です。

Shared LOM EXT モードでは、1 Gb/10 Gb イーサネットポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC) にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したノードのセット アップ (94 ページ)の説明に従って、ノードに接続して NIC モードを変更できます。

- NICの冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネットポートが同時に使用 されます。
- DHCP は有効になっています。
- IPv4 は有効です。

#### 接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の2つの方法があります。

- ・ローカル設定:キーボードとモニタをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、KVMケーブル(Cisco PID N20-BKVM)またはノードの背面にあるポートが使用できます。
- ・リモート設定:専用管理LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。



(注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上にDHCPサーバが存在する必要があります。このノードのMACアドレスの範囲を、DHCPサーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MACアドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています。このノードでは、CiscoIMC に6つのMAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されているMACアドレスは、6つの連続MACアドレスのうち最初のものです。

### スタンドアロン設定のためのノードへのローカル接続

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- ・USB キーボード
- サポートされている Cisco KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM)、または USB ケーブル と VGA DB-15 ケーブル
- ステップ1 電源コードをノードの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブート時には、ノードが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ2 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタをノードに接続します。

・オプションの KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を前面パネルの KVM コネクタに接続します。 USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。 • USB キーボードと VGA モニタを背面パネルの対応するコネクタに接続します。

- ステップ3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。
  - a) 前面パネルの電源ボタンを4秒間長押しして、ノードを起動します。
  - b) ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら F8 を押します。
- ステップ4 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したノードのセットアップ (94ページ) に進みます。

### スタンドアロン設定のためのノードへのリモート接続

この手順には、次の機器が必要です。

•管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に

- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上にDHCPサーバが存在する必要があります。このノードのMACアドレスの範囲を、DHCPサーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MACアドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています。このノードでは、Cisco IMC に6つのMACアドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されているMACアドレスは、6つの連続MACアドレスのうち最初のものです。
- ステップ1 電源コードをノードの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。 初回のブート時には、ノードが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システム の電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場 合、サーバはスタンバイ電源モードです。
- **ステップ2** 管理イーサネット ケーブルを背面パネルの専用管理ポートに差し込みます。
- ステップ3 事前設定された DHCP サーバで、ノードに IP アドレスを割り当てられるようにします。
- ステップ4 割り当てられた IP アドレスを使用して、ノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。IP アドレス を特定するには、DHCP ノードの管理者に相談してください。
  - (注) ノードのデフォルトのユーザ名は admin です。デフォルト パスワードは password です。
- ステップ5 Cisco IMC ノードの [Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別の KVM コンソール ウィンドウが開きます。
- **ステップ6** Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle node] をクリックします。システムがリブートします。
- **ステップ7** KVM コンソール ウィンドウを選択します。
  - (注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウで ある必要があります。

- ステップ8 プロンプトが表示されたら、F8を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリ ティは、KVM コンソール ウィンドウで開きます。
- **ステップ9** スタンドアロン設定のためのノードへのリモート接続 (93 ページ) に進みます。

### Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したノードのセットアップ

#### 始める前に

ノードに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

- ステップ1 NIC モードを設定して、サーバ管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。
  - [Shared LOM EXT](デフォルト): これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。この モードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルで す。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの [Active-Active] を選択する必要があります。

NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返されます。サー バがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディ セーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、 Cisco Card NIC モードを使用します。

- [Shared LOM]: Cisco IMC へのアクセスに1 Gb/10 Gb イーサネットポートを使用します。次のステッ プで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。
- [Dedicated]: Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性 設定に [None] を選択する必要があります。
- [Cisco Card]: Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイス カード (VIC)のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

- [VIC Slot]: Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この 設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM (mLOM スロット) のいずれか を選択します。
  - [Riser1] を選択した場合は、スロット1に VIC を取り付ける必要があります。
  - [Riser2] を選択した場合は、スロット2に VIC を取り付ける必要があります。
  - [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があ ります。
- ステップ2 必要に応じて、NIC 冗長性を設定します。このサーバでは、次の3つのNIC 冗長性設定を行うことができます。

- [None]: イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- [Active-standby]:アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにト ラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
- [Active-active] (デフォルト) : すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。
- **ステップ3** ダイナミックネットワーク設定用にDHCPをイネーブルにするか、スタティックネットワーク設定を開 始するかを選択します。
  - (注) DHCPをイネーブルにするには、DHCPサーバにこのサーバのMACアドレスの範囲をあらかじ め設定しておく必要があります。MACアドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。こ のサーバでは、Cisco IMC に6つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印 字されている MAC アドレスは、6つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

静的 IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

• Cisco IMC の IP アドレス。

IPv6の場合、有効な値は1~127です。

•ゲートウェイ。

**IPv6**の場合、ゲートウェイが不明な場合は、:: (コロン2つ)を入力して none のままに設定することができます。

•優先 DNS サーバ アドレス。

IPv6 の場合、:: (コロン 2 つ) を入力してこれを none のままに設定することができます。

- ステップ4 (任意) VLAN の設定を行います。
- ステップ5 F1を押して2番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。2番目のウィンドウでF2を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。
- **ステップ6** (任意) サーバのホスト名を設定します。
- ステップ7 (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。
- ステップ8 (任意) [Factory Default] チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。
- **ステップ9** (任意) デフォルトのユーザ パスワードを設定します。
  - (注) サーバのデフォルトのユーザ名は admin です。デフォルト パスワードは password です。
- **ステップ10** (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定します。

- (注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックス モードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定する必要があります。
- **ステップ11** (任意) ポート プロファイルとポート名をリセットします。
- ステップ12 F5を押して、行った設定に更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「Network settings configured」 が表示されるまでに約45秒かかる場合があります。その後、次の手順でサーバを再起動します。
- **ステップ13** F10 を押して設定を保存し、サーバを再起動します。
  - (注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスが ブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

#### 次のタスク

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続しま す。IP アドレスは、行った設定に基づいています(スタティック アドレスまたは DHCP サー バによって割り当てられたアドレス)。



(注)

サーバのデフォルトのユーザ名は admin です。デフォルト パスワードは password です。



サーバの仕様

- ・サーバの仕様 (97 ページ)
- 電源コードの仕様 (101 ページ)

# サーバの仕様

この付録では、サーバの物理的仕様と、環境および電源の仕様を示します。

## 物理仕様

次の表に、ノードの物理仕様を示します。

#### 表 9:物理仕様

説明	仕様
高さ	43.2 mm (1.7 インチ)
幅	429.0 mm (16.9 インチ)
奥行 (長さ)	ノードのみ:740.3 mm(29.5 インチ)
	ノードとスライドレール:787.4mm (31.0インチ)
最大重量(フル装備シャーシ)	22.7 Kg (50.0 ポンド)

# 環境仕様

次の表に、ノードの環境要件および仕様を示します。

表10:物理仕様

温度(動作時)	$41 \sim 95 ^{\circ}\text{F} (5 \sim 35 ^{\circ}\text{C})$
	海抜 305 m ごとに最高温度が1℃低下。
	詳細情報については、『Ciscoユニファイドコンピュー ティングシステムサイトプランニングガイド:データセ ンターの電源と冷却』を参照してください。
非動作時温度	$-40 \sim 149 ^{\circ}\text{F} (-40 \sim 65 ^{\circ}\text{C})$
(ノードが倉庫にあるか輸送中の場合)	
湿度(RH)(動作時)	$10 \sim 90 \%$
湿度(RH)(非動作時)	5~93%
(ノードが倉庫にあるか輸送中の場合)	
動作時高度	0~10,000フィート
非動作時高度	0~40,000 フィート
(ノードが倉庫にあるか輸送中の場合)	
音響出力レベル	5.5
ISO7779 に基づく A 特性音響出力レベル LwAd (Bels) を測定	
73°F (23°C) で動作	
騒音レベル	40
ISO7779に基づく A 特性音圧レベル LpAm(dBA)を測定	
73°F (23°C) で動作	

# 電力仕様

(注)

ノードでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合わせて使用しないでください。両方 の電源装置が同じである必要があります。

次の URL にある Cisco UCS Power Calculator を使用すると、ご使用の構成の電源に関する詳細 情報を取得できます。

http://ucspowercalc.cisco.com [英語]

サポート対象の電源装置オプションの電源仕様を次に示します。

### 770 W AC 電源装置

ここでは、各 770 W AC 電源装置の仕様を示します(Cisco 部品番号 UCSC-PSU1-770W)。

#### 表 11:770 WAC 仕様

説明	仕様
AC 入力電圧	公称範囲:100~120 VAC、200~240 VAC
	(範囲:90~132 VAC、180~264 VAC)
AC 入力周波数	公称範囲: 50~60 Hz
	(範囲:47~63 Hz)
最大 AC 入力電流	100 VAC で 9.5 A
	208 VAC で 4.5 A
最大入力電圧	950 VA @ 100 VAC
最大突入電流	15 A (サブサイクル期間)
最大保留時間	12 ms @ 770 W
<b>PSU</b> あたりの最大出力電	770 W
フ	
電源装置の出力電圧	12 VDC
電源装置のスタンバイ電 圧	12 VDC
	Climate Savers Platinum Efficiency (80 Plus Platinum 認証済み)
フォーム ファクタ	RSP2
入力コネクタ	IEC320 C14

### 1050 W AC 電源装置

ここでは、各 1050 W AC 電源装置の仕様を示します(Cisco 部品番号 UCSC-PSU1-1050W)。

#### 表 12:1050 WAC 仕様

説明	仕様
AC 入力電圧	公称範囲:100~120 VAC、200~240 VAC
	(範囲:90~132 VAC、180~264 VAC)

AC 入力周波数	公称範囲:50~60 Hz
	(範囲:47~63 Hz)
最大 AC 入力電流	100 VAC で 12.5 A
	208 VAC で 6.0 A
最大入力電圧	1250 VA @ 100 VAC
最大突入電流	15 A (サブサイクル期間)
最大保留時間	1050 W で 12 ms
PSU あたりの最大出力電	800 W @ 100 $\sim$ 120 VAC
力 	$1050 \text{ W} @ 200 \sim 240 \text{ VAC}$
電源装置の出力電圧	12 VDC
電源装置のスタンバイ電 圧	12 VDC
効率評価	Climate Savers Platinum Efficiency (80 Plus Platinum 認証済み)
フォームファクタ	RSP2
入力コネクタ	IEC320 C14

### 1050 W DC 電源装置

ここでは、各1050WDC電源装置の仕様を示します(Cisco部品番号UCSC-PSUV2-1050DC)。

#### 表 13:1050 W DC 仕様

説明	仕様		
DC 入力電圧	公称範囲:-48~-60 VDC		
	(範囲:-40~-72 VDC)		
最大 DC 入力電流	32 A(-40 VDC 動作時)		
最大入力ワット数	1234 W		
最大突入電流	35 A(サブ サイクル期間)		
最大保留時間	100%の負荷で5ms(1050Wメインおよび36Wスタンバイ)		
PSU あたりの最大出力電	1050 W (DC 12 V 主電源)		
カ 	36 W (DC 12 V スタンバイ電源)		

電源装置の出力電圧	12 VDC
電源装置のスタンバイ電 圧	12 VDC
効率評価	≥92%(負荷50%)
フォーム ファクタ	RSP2
入力コネクタ	固定3線ブロック

# 電源コードの仕様

ノードの各電源装置には、電源コードがあります。ノードとの接続には、標準の電源コードま たはジャンパ電源コードを使用できます。ラック用の短い方のジャンパ電源コードは、必要に 応じて標準の電源コードの代わりに使用できます。



(注) 使用できるのは、下の表に示す認定済みの電源コードまたはジャンパ電源コードだけです。

表 14:サポートされる電源コード

Description	長さ(フィート)	長さ(メートル)
CAB-48DC-40A-8AWG	11.7	3.5』
DC 電源コード、-48 VDC、40 A、8 AWG		
3 線の 3 ソケット Mini-Fit コネクタ		
CAB-C13-C14-AC	9.8	3.0
電源コード、10A、C13~C14、埋め込み型コンセント		
CAB-250V-10A-AR	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
アルゼンチン		
CAB-C13-C14-2M-JP	6.6	2.0
電源コード、C13 ~ C14		
日本 PSE マーク		
CAB-9K10A-EU	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、CEE 7/7 プラグ		
欧州		

CAB-250V-10A-IS	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
イスラエル		
CAB-250V-10A-CN	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
中華人民共和国		
CAB-ACTW	7.5	2.3
AC 電源コード、250 V、10 A		
台湾		
CAB-C13-CBN	2.2	0.68
AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 V、10 A、		
$C13 \sim C14$		
CAB-C13-C14-2M	6.6	2.0
AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 V、10 A、		
$C13 \sim C14$		
CAB-9K10A-AU	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、3112 プラグ、		
オーストラリア		
CAB-N5K6A-NA	8.2	2.5
AC 電源コード、200/240 V、6 A		
北米		
CAB-250V-10A-ID	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
インド		
CAB-9K10A-SW	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、MP232 プラグ		
スイス		
CAB-250V-10A-BR	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A		
ブラジル		

CAB-9K10A-UK	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A(13 A ヒューズ)、BS1363 プラグ		
英国		
CAB-9K12A-NA	8.2	2.5
AC 電源コード、125 V、13 A、NEMA 5-15 プラグ		
北米		
CAB-AC-L620-C13	6.6	2.0
AC 電源コード、NEMA L6-20 - C13 コネクタ		
CAB-9K10A-IT	8.2	2.5
AC 電源コード、250 V、10 A、CEI 23-16/VII プラグ		
イタリア		
R2XX-DMYMPWRCORD	NA	NA
電源コードなし。電源コードなしサーバを選択する PID オプションあり。		



# ストレージ コントローラに関する考慮事 項

この付録では、ストレージコントローラ (HBA) に関する情報を提供します。

- ・サポートされるストレージョントローラとケーブル (105ページ)
- •ストレージ コントローラ カードのファームウェアの互換性(105ページ)

# サポートされるストレージ コントローラとケーブル

このノードは、専用の内部ライザーに差し込む PCIe タイプの1台の SAS HBA コントローラを サポートします。HBA の交換手順については、SAS ストレージコントローラカード(HBA) の交換(78ページ)を参照してください。

このノードでは、次の表に示すストレージコントローラオプションと必要なケーブルがサポートされます。

コントローラ	サーバ バージョン/制御ド ライブ最大数	RAID レベ ル	オプションの Supercap バック アップ	必要なケーブル
Cisco 12G モジュラ SAS HBA	フロントロード SAS/SATA ドライブ X 10	非 RAID	なし	シャーシに付属している SAS/SATA ケーブルを使用してコ
UCSC-SAS-M5				ントローラをドライブ バックプ レーンに接続します。

# ストレージコントローラカードのファームウェアの互換 性

ストレージ コントローラ HBA 上のファームウェアに、ノード上にインストールされている Cisco IMC および BIOS の現行バージョンとの互換性があることを確認する必要があります。 互換性がない場合は、Host Upgrade Utility(HUU)を使用して、ストレージコントローラの ファームウェアを互換性のあるレベルにアップグレードまたはダウングレードしてください。

このユーティリティをダウンロードする方法、およびこのユーティリティを使用してノードコンポーネントを互換性のあるレベルにする方法については、HUUガイドに用意されている、 ご使用の Cisco IMC リリースに対応する HUU ガイドを参照してください。